PAST PRINCESS

パスト・プリンセス

PRESENTED by
MAKI SHINONOME

東雲舞樹

成年コミック
ANGELCOMICS

エンジェルコミックス

PAST PRINCESS
パスト プリンセス

東雲舞樹

成年コミック

エンジェル出版

パスプリ
ばんがいへん
「帰ってきた日常？」

私セルシアは
フロワンス王女殿下付の
侍女をつとめさせて
頂いております

何とかこの国も
立ち直りつつあり
お城の復旧も進んで
いるみたい

殿下!?

チコン
チコン

王女殿下？

王女殿下もお元気に
なられて女王としての
戴冠式を待つ
ばかりなんですよ

はぁふー
どこにいらっ
しゃるのやら

殿下!?

PAST PRINCESS
パスト・プリンセス
MAKI SHINONOME

CONTENETS

第1話 闇夜の狭間 5

第2話 狭間の灯し火 25

第3話 灯し火の快楽 49

第4話 快楽の波紋 69

第5話 波紋のさざ波 97

第6話 さざ波の狂宴 121

第7話 狂宴の終幕 143

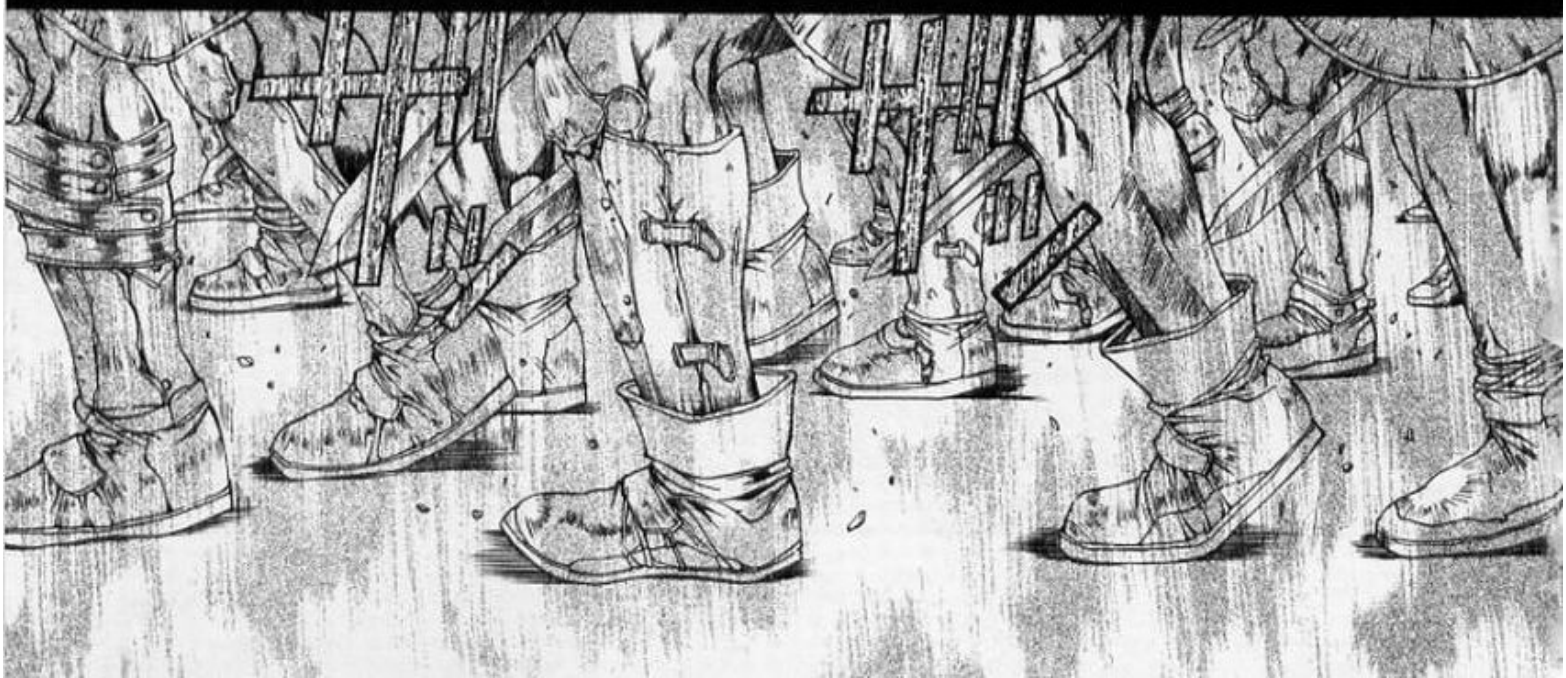
第8話 終幕の轍 163

PRESENTED by
MAKI SHINONOME

PAST PRINCESS

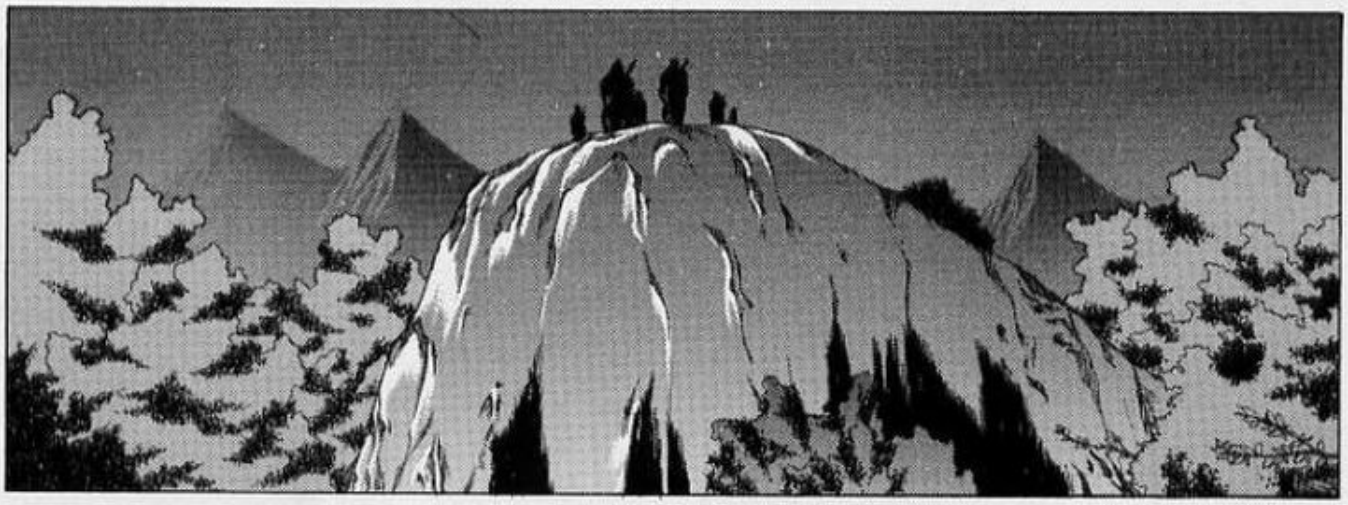
パスト・プリンセス

第1話 闇夜の狭間

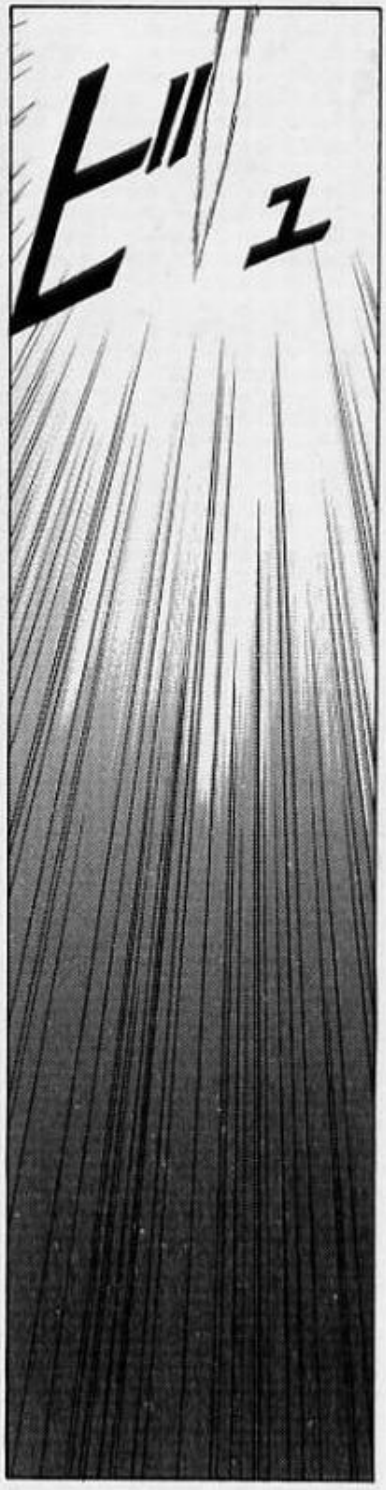


殿下
お急ぎ下さい！
はっ
はっ
えっ
ええ…

ポタ



ドラキ


ヒュー

アナヘイム王国
第一王女
アナヘイム・メイ
＝フロワンス
殿下とお見受け
します

下がれ
下郎ども
！

パキッ

下郎…

あづッ

なめるなよ
負け犬め!!

お前達を
守ってくれる
騎士団も国も
もうないんだぜ

うぐッ

きゃ
あぁぁ
うぐッ

その者達に
何を!!

おっと
王女殿下には
おとなしくしていて
頂きたいですな…

んぐうう…

へへへっ
戦場にでて
久しぶりの女だからな
たっぷり
犯らせてもらうぜ
嫌あ!!
ひっあああっ
はあ…
あぁ…
あっ…
口の方が
留守になってるぞ!

くふうう…

はあ…

ずぷゅ

ぐちゅ

んふう…

やめてよぉ

いやぁ
あぁぁ

もう
許してえ！

よーく
見ておけよ

お前達王族のせいで
あんな目に
あってるんだからよ

はっ…

…はっ

痛ぁ!!
痛いよ
はっ…
嫌あぁぁ!!
はあっ…
すぽぽぽ…
ぬいてぇ
ぬいてよぉ
あはッ
オラッ
起きろ!
はっ
はっ
も…もう
いやぁ
はっあああん

手もしっかり使えよ！
ぐちゅぐちゅ
ちゅぷ
ちゅぷ…
んぐつんん…
ふぁぁつ…
ふうんんん…

くぃっ
んぐッ

くぅ…はぁふ
ビク
でないと大事なお姫様を犯っちまうぜ！
ぐちゅ

ゴッ
ゴッ
ゴキュッ
ゴキュ
んぐんんん……

ふぁ…

ぴくっ

はっ

ぴくっ

はっ

ぴちゃ

あっあああ…

はっ
はっ
はっ
はっ
はっ
はっ
はぁ…
ひっ
ぴゅるぴゅる
ビクッ
あッん
休んでんじゃねーぞコラ！
ガシャ
ひいっ
ズリュ
いやあぁ許してぇ

ミしゅか
ビリ白ー
どんな気分だい王女様よぉ
お前をかばってあんな目にあってるんだぜ…
それとも王族なんてのは召し使い達がどうなろうと
何も感じないもんなのか
おい王女様よ
ムッ
ビクッ
ッ!!
一人だけ見物してるだけじゃ退屈だろ俺のを喰わえてくれよ!

おい やめとけよ
王女は傷つけるな
って命令だぜ

大丈夫だよ
それに するのは
こいつの方さ

まぁ嫌なら
俺もあいつらを
使ってみるけどな

かわいそうに…
なぁ そう思うよな
王女殿下…クククッ

はふ…

ああ…

びちゅ

ぐちゅ

いいかげん
使いものに
ならなそうだからなぁ

ドギ
ドギ
おいおい
もっとのどまで
くわえろ！
ちゅる
ビクル
ケホッ
コホッ
なんだよ
せき込みやがって
まだ射精しても
いないんだぜ！
ほらっ
続けろよ！
は…はい

さっさと始めないと
また無理矢理
くわえさせるぜ

はあぁ…

はっ

はっ

んふうう

はあんっ…

ちゅる

んんっ

はっ

はっ

はっ

ビクッ ビクッ

ハ!?
こんな……
私のために……
みんな私のせいで
こんな目に……

ぶるぶる…
はっ
あっはぁぁ…
はっ

おい そろそろ引き上げるぞ！

くううんっ

チッ わかったよ

ふぁ…

はっ

ふる…ふる…

あっ…ああ

はぁ…

はっ

はっ…

くはッ

その女どもは連れていくぞ 居残りの奴らにもまわしてやらないとな

さぁ
王女殿下にも
ご足労
願いますよ…
第1話✡END

ここに連れて来られて
どれぐらいたったのだろう
……

絶える事のない
仲間のくぐもる声に
まじって むせかえる
臭気がただよってくる…

ぁぁっ…

はぁっ

ぉぉぉぁ…

はぁッ

オラッ
尻をつきだして
エサを食え!!

ズズズズズ…
すりゅ
ああああっ…
くちゅ
んんっ
ビクッ
びゅる
ふあぁぁぁ…
あッ
ああッ

カ
ずりゅずりゅ
あっ…
はあっ…
はっ…
はっ…
ああぁ…
カ
カ
ラ
ラ
ラ
ラ
あッ
ああッ
王女…でん…か…

第2話

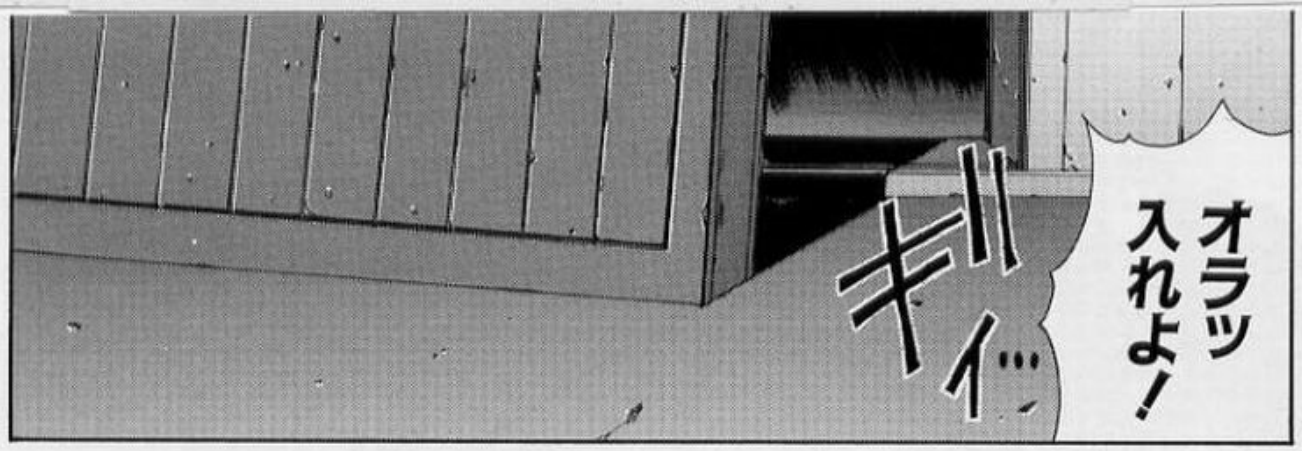
狭間の灯し火

みんな…
大丈夫かな…

カチャ

あっあぁぁ…

いやぁぁぁぁ



セルシィ!?
わっ！
ドドド

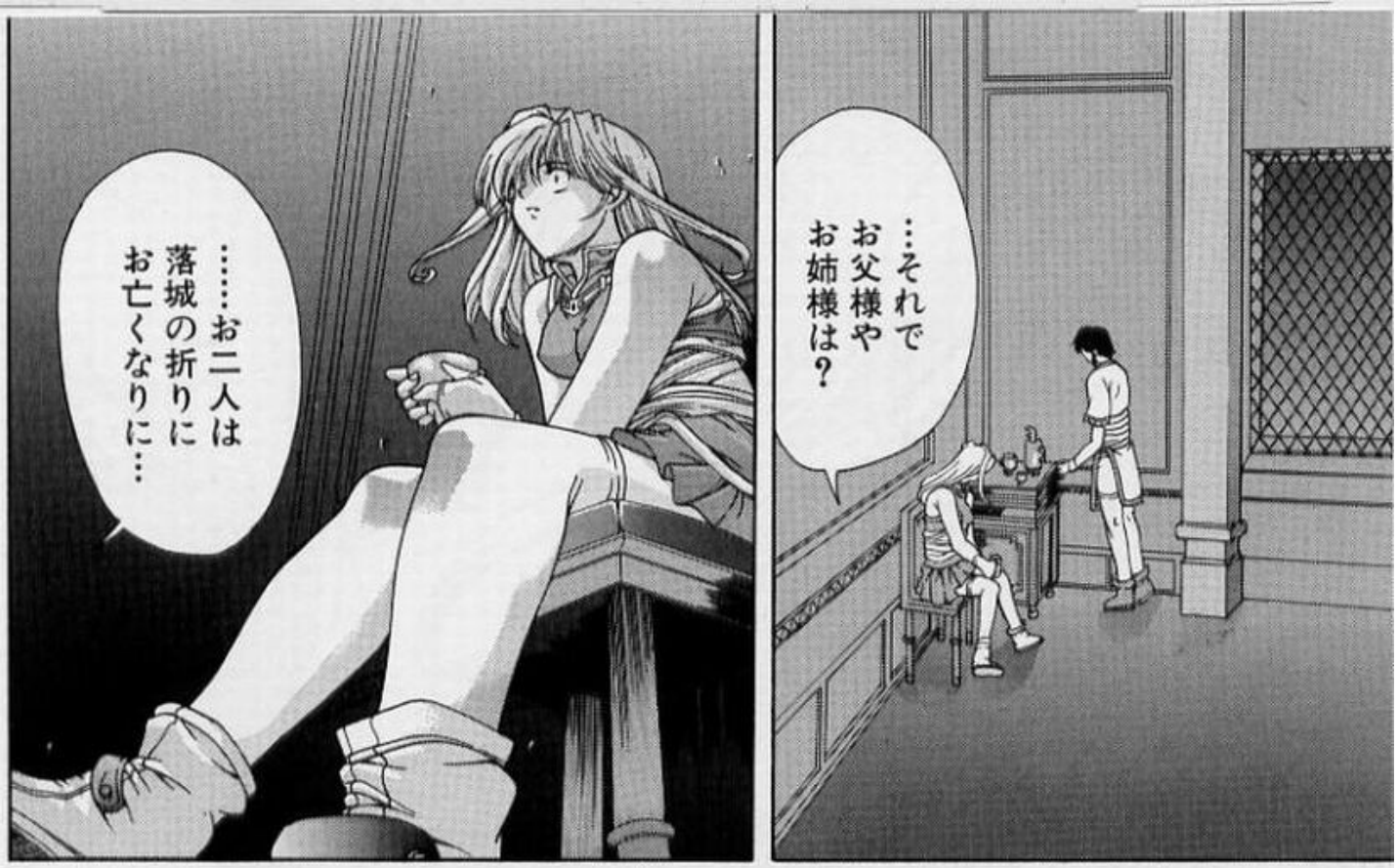
よかった…無事で

フロワンス様…

セルシィは どうしてここに?

殿下の身の回りの 世話を仰せつかって まいりました…

そうなの…


…それでお父様やお姉様は？
……お二人は落城の折りにお亡くなりに…

そう…
妹君は行方知れずで…

そうよね…
ユラユラ

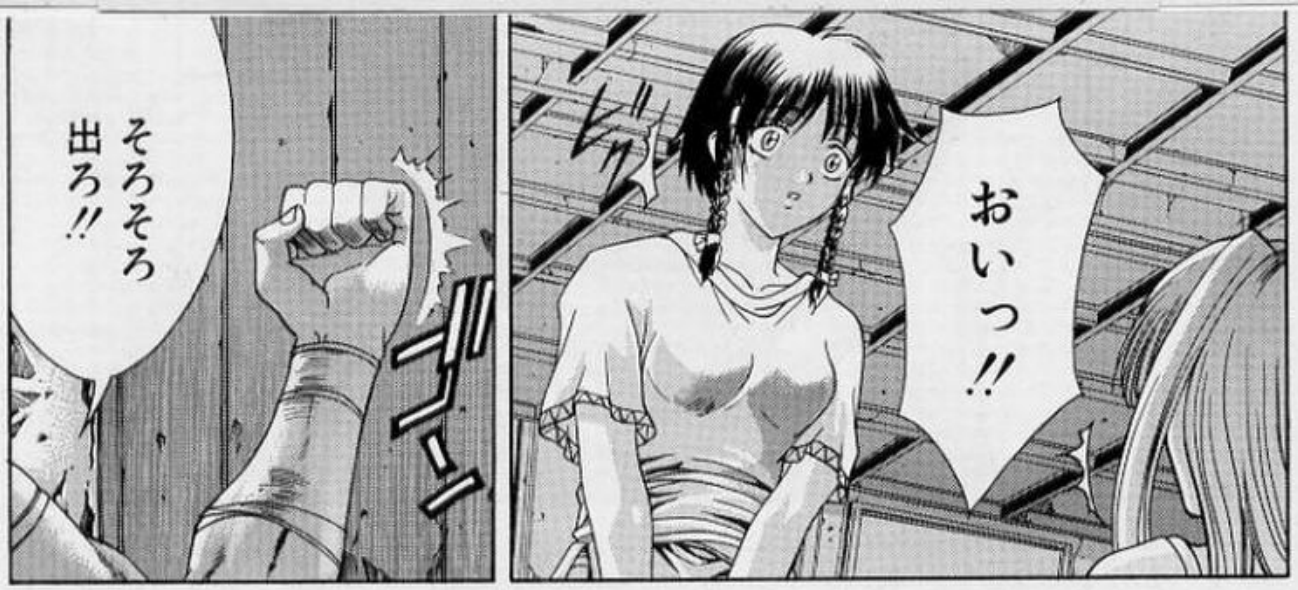
殿下…

あの私には難しい事は分からないけど…その何もできないし…

…
それでも殿下が生きておられてうれしい……
セルシィ…

ありがとう
セルシィ…

あなたも無事で
本当によかったわ…
フロワンス様…
きゅ


おいっ!!
そろそろ出ろ!!

きゅ…

明日も来てくれるのよね……

!?

ハイッ もちろんです
ニコッ

ハハハ…
セルシィ…
殿下……
ハッ!?

あっ…

たじ…

……

おいおい
あいさつもなし
なのかよ！

きゃあッ
痛いです
はなして
はなして下さい！
きゃッ
なっ…
何をするん
ですか!?
通行税って
やつさ…

ふうッ
へへへっ まだガキじゃないか 処女かぁ……
ふぐうっ
んんっ…
んんっ…
くっ
ビクッ
んぐう
くちゅ
んんっ…
心配いらねえぜ お前の世話は オレ達が毎日 してやるよ！
安心して お姫さんの所に 日参してくれよ
ふッ…
ビクッ
くちゅ
ふぐっ

ビクッ
んんっ…
ピクッ
ふる…
いいか
次からはいつでも
使えるように
こんな物は着けて
くるな！
むぐうッ…
ふぐうッ

これからは
俺達に使われる
事だけを
考えるようにしろ
ビクッ

んんッ…
ぴちゃ
ちゅ
ふっ…んん…
ちゅ
ビクビク
ん…
ふっ…うう
ぴちゃ
ぴちゃ
ふあっ…
ピクッ
ピクッ

へへへっ
濡れてきたぜ
かわいいねぇ…

あふう…

ぐちゅ

んんっ…

ぐぃっ

はっ

やめ…やめて下さい

ぶる…

や……

はっ…

ああ……
やっ…
ぷちゅ
ぷちゅ…
ああっ…
はっ…
あッ…やっ
ああ…ッ
ビクッ
ビクッ
やっ…
やめ…
くちゅ
くちゅ
くちゅ
そろそろいいか
もう充分
濡らして
やったからな
そろ…そろ？
くちゅ

いや…嫌ぁ!!

ビクッ

いやだぁ…

やめて!!

やめ…

くちゅ

ぐにゃ

やめて下さ…

嫌だっても重力にかなわねぇだろう……

くちゅ

ぐちゅ

ヒッ!

ああッ…

ズリュ

ぐッ!!
ああッ
やあああッ…

ヒッ…
ヒッ
うッ…
ひっ…姫さま…
ズッ
ズッ

あッ!!
びくびくっ
嫌あぁぁぁく…苦しい
はっ…
やめ…っ
ズリュ
ズリュ
ズリュ
ああッ

!!
ズリュ
んぐうッ

んんっ!!
んぐぅ
うぅぅ
うぶッ
づづッ
んぐっ
!!
ひあッ

はあッ…ああ
ああっ……
はっ…
ドプ
ドプ

ハッ
ハッ…
ハッ…

セルシィ
明日はいつ頃
来るかしら…
第2話✡END

あッ

やっ…た…

ああっ

あッ

たすけッ…
もッ…許しッ

あッぁ

はあッ

ああッ
やあ…

たあッ…

あうッ

あッ…

ひあッ…

……

……ィ

……ルシィ

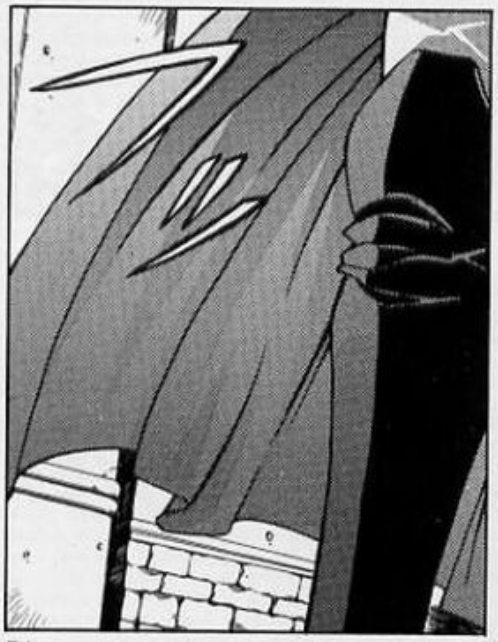
ヒョコ
セルシィ!!
どうしたのセルシィ具合でも悪いの?
いえ…大丈夫です
ちょっとボーっとしちゃって……

それでは
また明日
参ります

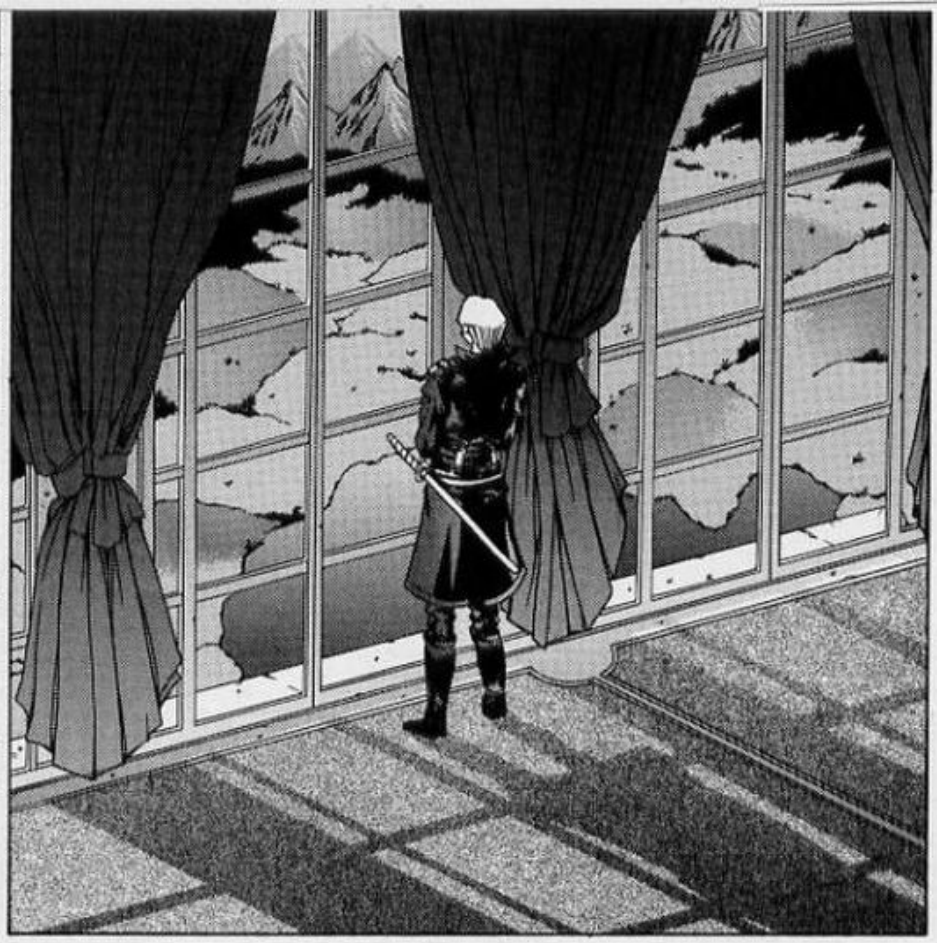
ビクッ
おい！

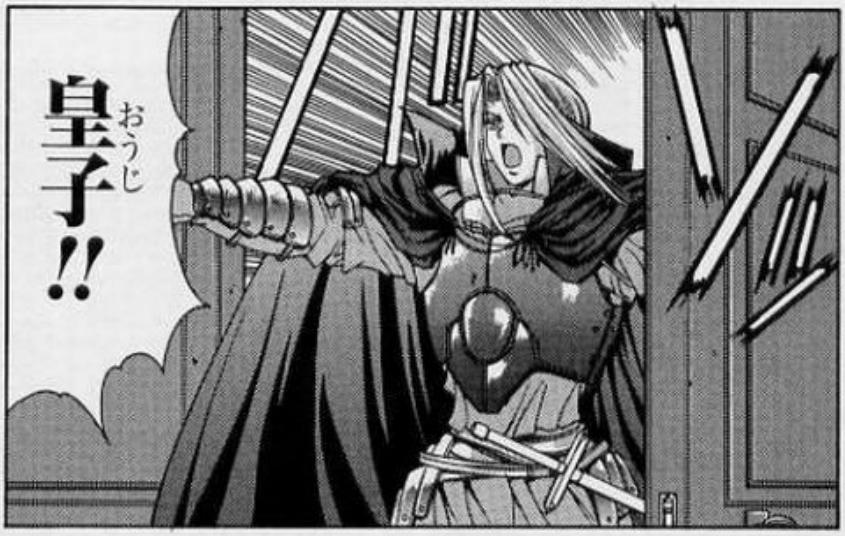
ぐっ
ッ!!
よしよし
はいてきてねーな
いー子だ
ぬる…

それじゃあ
今日も
行くか…
……



第3話
灯し火の快楽




皇子(おうじ)!!

アルシェラ

何だ騒々しいな

何だではありません!!
あの女をいつまで放っておかれるつもりですか
お前ときたらあの女などと…
いけないな王女殿下とお呼びしなければ
ごまかさないで下さい!
城も含め王都の八割方は接収ずみなのですよ!

生かしておいても残党に蜂起の機会を与えるにすぎません！
彼女を生かしておく事で
近隣諸国への圧力にもなるし市民達を懐柔しやすくもなるんじゃない
ですが!!
あ――まぁね…
だけどさぁその反面で
アールシェラー
おいでいつものようにして…
まだ…お話が
それにここでは…外に兵も……
アルシェラ

はっ…
仰せのままに殿下……
はぁ…
はぁ
はー
はー
はー
はー
はー
はぁ…
はっ…

ピクッ
きゅっ
ン…
んっ…ふぅ…
あっ…
ムちゅ
は――…
なぁ…アルシェラ
おっ…皇子!!
ビクッ
ヒャッ
あぁッ

アルシェラ
二人の時は
ご主人様と呼べと
言っただろう!!

お…お許し
下さい……

ぎゅっ

ああ…

あっ…

は…

はっ…

ビクッ

くうッ!!

ビクッ

ご主人様 やめ…
声が…でちゃう

はあ…

はっ…
はっ…

ふるぶる

クククッ…
そうだな

ちゅぱ

クチュ…

くちゅ…
くちゅ
第一将軍として恐れられているお前が
尻を叩かれて濡らす淫乱だと知られれば
兵の士気にも影響するだろうな…
あぁっ
くちゅ
クククッ…本当にかわいいよお前は
ピキュー
はぁ——
はぁ——
はぁー
ビクッ
ビクッ
お前のような雌にはぴったりの物があるぞ
お前の愛液を糧に連動する魔道を使った玩具だ
何!?
ヒイッ

ああっ
愛液を吸って さらに大きくなって
お前の膣中をかきまわしてくれるそうだぞ
嫌ああ… 気持ち悪いよぉ
あっ
あっ… やぁあっ
ああ…あばれてる 膣内で…奥でおかしくなる
ご主人様―― こんな…こんなの 嫌あっ！
ぬいてぇ… ぬいて下さい！
あっ
あっあああ

やぁぁ
ああっ
はっ
あっ
ずずず
ああっ
やっ
フフフ…
すごいな…だが
まだ余裕が
あるんじゃないか
ああっ

あぁっ
はっ…
もう一本
挿入れてやろう
やあっ

やっ…やめて下さい
ほんと…に…おかし
…く

メリッ
ギチッ
なって見せて
くれよ！
ビクッ

キチ
キチ
あ…!?
あっ
ひっ…あぁっ
そそそ
ふうっ
くうっ
くうっ…くふぅ
はッ…!?
やッやッ…
がくがくぶるぶる
あッあッ
はぁーッ!!

すごいな
二本とも飛びだして
しまったぞ

ビクッ
ビクッ

びくっびくん

ビュッビュッ

ああっ…はっ

はぁ——

はっ…

あっはあ

あぁ——っ
はっ—

はっ—

はぁ—

よほど
気持ちが
良かったよう
だな……

はぁ—

あぁ…これ
ご主人様の
下さい…

はっ

はぁ

はぁ

あふぅ…
うぅふぅんん…
お願い…ご主人様ぁ
早く…これ下さい
はあっ
もうがまんできないんです…
はっ
ずずずずずず
んんっ…
ふぐぅ…
ご主人様ぁ
はっ…
はっ
はやくッ
挿入れてぇ
はぁ
はぁ

…はあっ
んぐぅ…
全くしょうがないなアルシェラは
ずずずず
くちゅ
すりゅ…
すりゅすりゅ
ふっんんっ…
ちゅ
ちゅ…
んんっ……

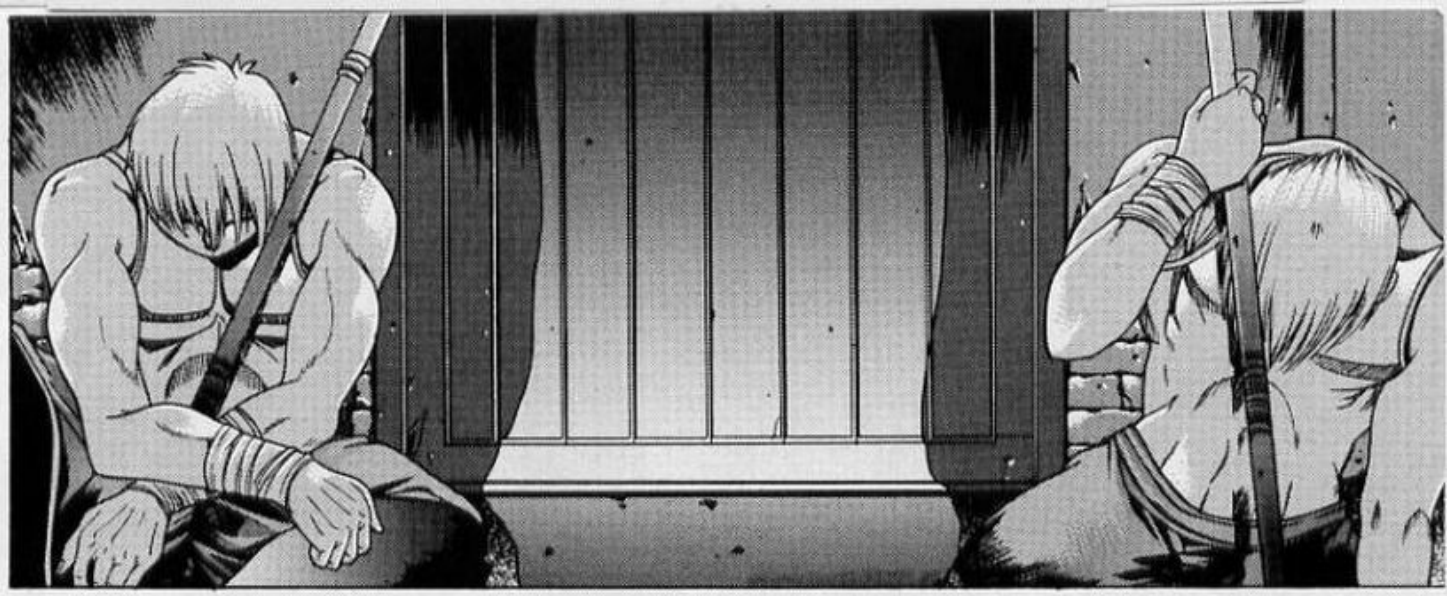
すごいっ
奥…とどいてゴリゴリして
アッ
すりゅ

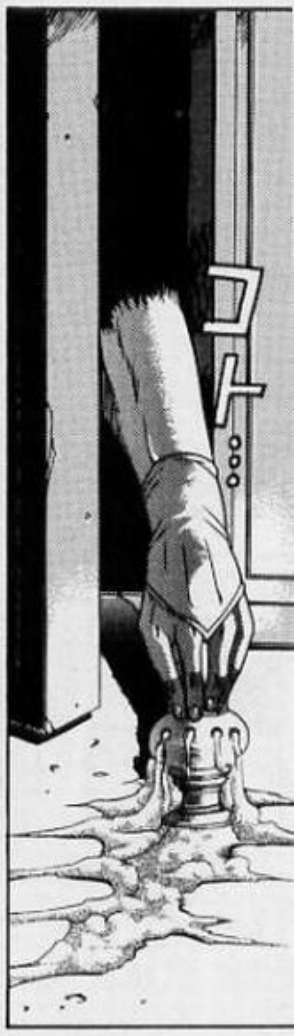
あッあッ!?
いっあッいく…いっ
ずぷっ

すごっ…
アッアッアッ
いっ!!
ズッ
ズッ
イッ…いくいく

はッ
はっ
ああッ
ああ やぁ あッあ
やあッ
ゴボッ
ブビュッ
ブビュッ

やぁッ
はッぁ…ッ
ぁッはぁぁーッ
心配するな
アルシェラ
お前は俺に
ついて来い…
ぎゅぎゅ…っ
彼女にはもっと大事な
役目を用意してある




コト…

んっ…
第3話✡END

ぞぞぞぞ…

ふる…

あっ…ぁぁ

いや…んくぅ
見ないで……

いやぁ…

くちゅくちゅ

ふうんんっ…んんんっ

ひっくぅぅんうんっんん

はあっ…

ぶる…

くちゅくちゅ

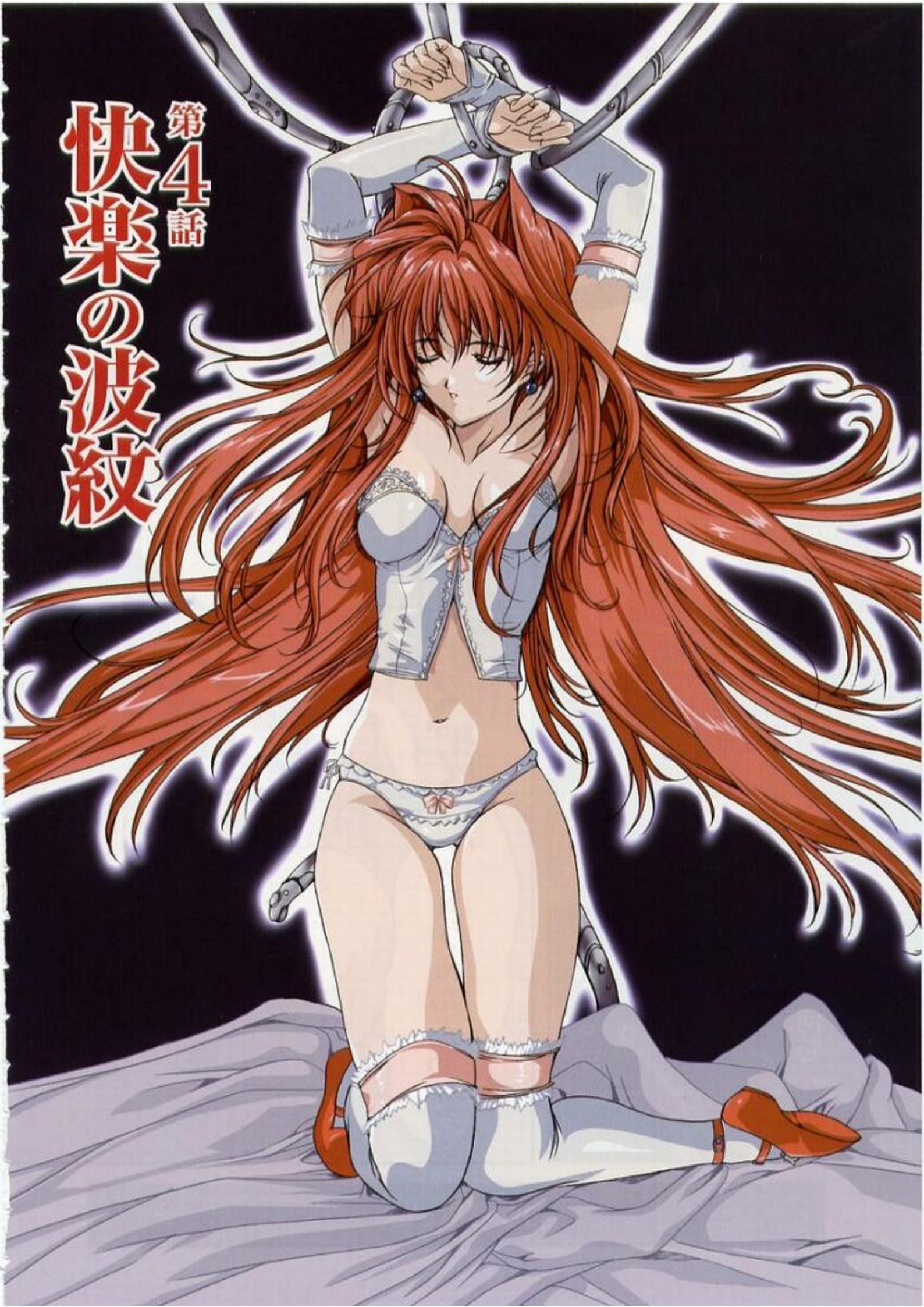
ビクッ

はっ

ぴちゅ…

見ないで…ダメダメだからぁ！

はあッ
ああ…
こんなの私じゃない
あっ
くちゅくちゅ
体…熱くて
止まらない
ぶるっ
…知らない
……何も
はあぁぁっ
ビクッ
がくがく
くちゅくちゅ
んっふうんんんっ…
わからないよ…


第4話
快楽の波紋

おや
殿下はどちらに？
ビクッ
なぜ私に聞く？
これは
失礼…
殿下は大そう
将軍をお気に
召されていた
ようなので
つい…
何が言いたい!!

いえいえ
特に他意は
ございませんが…

ただ
殿下も気の多い方で
いらっしゃるので

きさま…

これはこれは
すぎた事を
申しまして…

バカな!?

ですが
願わくば殿下の
お気が変わられ
ませぬように

つねづね
お仕え下さい
ますよう…

それではこれにて失礼致します
まっ…まて！
チッ…詐術士風情が
はあっ…
あぁぁ…
くっ…みっ見ないでお願…い
嫌ぁぁ…
あッ

ね〜っ

フフフッ どうして そんな事言うの？

お姫さまだって 気持ち良くって 仕方ないんでしょ

はあっ

はっ

↑・スールウィンテッド＝皇太子護衛の6人のわかめ（ちなみに本当のわかめではない）

はあっ…

そんな…事ない こんなのちがう…

あッ!?

んくうッ

ビクッ

違わないよ！ さっきから あなた 自分から してるじゃない

はあっ

はっ

ビクッ

わからない
体が熱くて…
はっ
はっ
だって…そんな
いいのよ
それが普通
だもの…
ブルッ…
ヒイッ
だぁって…
ムちゅ…
この香で
あなたのメスの
本能が少し
目覚めただけだもの
ビクッ

そのせいで…

ぶる…

あッ

やあッ!!

ダメェ

さわらないで

やぁぁ…

ビクッ

はぁ

ドキ

あっ

ああッ

やめっ

ぐちゅ

だから

ヒクッ

ひた

ちゅ

クス…

勘違いを

するな!

はあっ

はあっ

えっ!?

今まで自分をなぐさめていたのも…

快楽を求めていたのも……

お前自身だ！

これはきっかけにすぎない…

お前が求めているんだ！

はぁ…
お前は考えている
許してほしい
逃げだしたい
すがりたい
だが お前を支配しているのは
疼きだ!!
受け入れろ それがお前の役目だ
ひぅ…ひゃ
うぅ…う

ドキン
ふぅ…っ
うぅぅ…
はっ…
私こんなの欲しくなんか…
ドギッ
ドギッ
ドギッ
ふっ…
あの香のせいだもの…
くぅ……っ
はっ…
はあっ
ふっ…
そうでなきゃこんな…
んんっ…
ビクッ
ちゅ…
んっくぅぅ…
はあっ
クリっ
きゅ
はあっ
ぶるっ
ぶるっ
私がこんなんじゃ…
ぶるっ
はあ
はあ
はあ
みんな…がんばってるのに

がくがく
はあっ…
ぎゅっ…
はっ…
見ないで…
やだーー
クス…
だめ…だめ
見ないで…
はあーー
ぶるぶる
はあっ
はっ…
こんなの…んくっ
いけないの…
くちゅちゅ
ビクッ
ビクッ
はあっ
はっ…
だめっ…
こんなんじゃ
むにゅ
私…だって
しっかりしないと…
はっ…
はーっ
ぷくっ
ぐにゅ…

はあああッ
きゅう
フフフッごめんね お兄様は いじわるだから
どうして? 気持ちいいでしょ
イリイリ
嫌あッ
ヒイッく!!
ちゅちゅ
そく
そく
あッやぁ ああぁ
フッ
私達で優しく 教えてあげる わよ
やぁぁ はなして
あッ
きゅッ
きゅッ

はッあああッ
ビクッ
あッ
逃げたらあかんよ
ぎゅッ
ぷっ
ビクッ
はっ
やあッ！そ…そんな
やめてぇ汚なッ！
はあッあああ
へへへっ……びしょびしょだ
はあッ
つぷゅ
はあ
はっ
んあッやめなめな…でぇ
ちゅっ
ちゅぷ…

あんっ…
はあっ…
はっ
ちゅぷ
ぷっ
あっあっあっ
はなして！
はあッ
がくがく
ビクッ
はー
あんっ…あ
なっなめないで
やめてよぉ
ちゅぴちゅ
ぴちゅ
ちゅぷる
はあっ
ちゅる
ぷっ
ふっうぅん
はあっ
ちゅるるる
ふあッ
あんあっあっ
ダメダメぇ
嫌あッはッ

ドン
ふぁっ
はっあぁあっ
ビクン
はあ…
ヒクヒク
はあっ
はっ…
はー
はあっ
ヒクヒク
イっちゃったね
私達が見てた
のに…
ダメッ
本当に
やらしい娘
ね――お兄様

全くお前達は加減を知らないな
ぶるぶる…
はー
はー
お願い…もうもう許して
はあ…
も――僕達お兄様のためにやってるんだぞ！
おいっ
それにお姫様だって濡れ濡れで欲しがってるやい
ちゅる
そう言うな…
だっ…あっ
んむぅぅ…ずるぃ
それに王女はどう思っているかな？
ッ！
はぁ…そっそうやよね
はあっ
はっ…
はっ…
ねぇお姫さんかてお兄様の欲しいんやよね

ほ――ら こんなに大きい んやよぉ！
はー
はー
はー
ぎゅっ
これ挿入れて もらってぇと いっとお 気持ち ええんやから
ドキッ
ふうんん
んはっ…
ぴちゅ
はあ
ちゅっ
私…私…
うぅ
はぁぁぅ
ふぅぅ
ほら 王女様も いらして下さい

はあ
はー
どうぞ
お姫様…
あんっ
はっ
私…なんで
こんな事!?
うッんん
ぐいっ
くっ
フッ
はあっ
はっ
あの香のせい
…でも…
はあっ
はあ

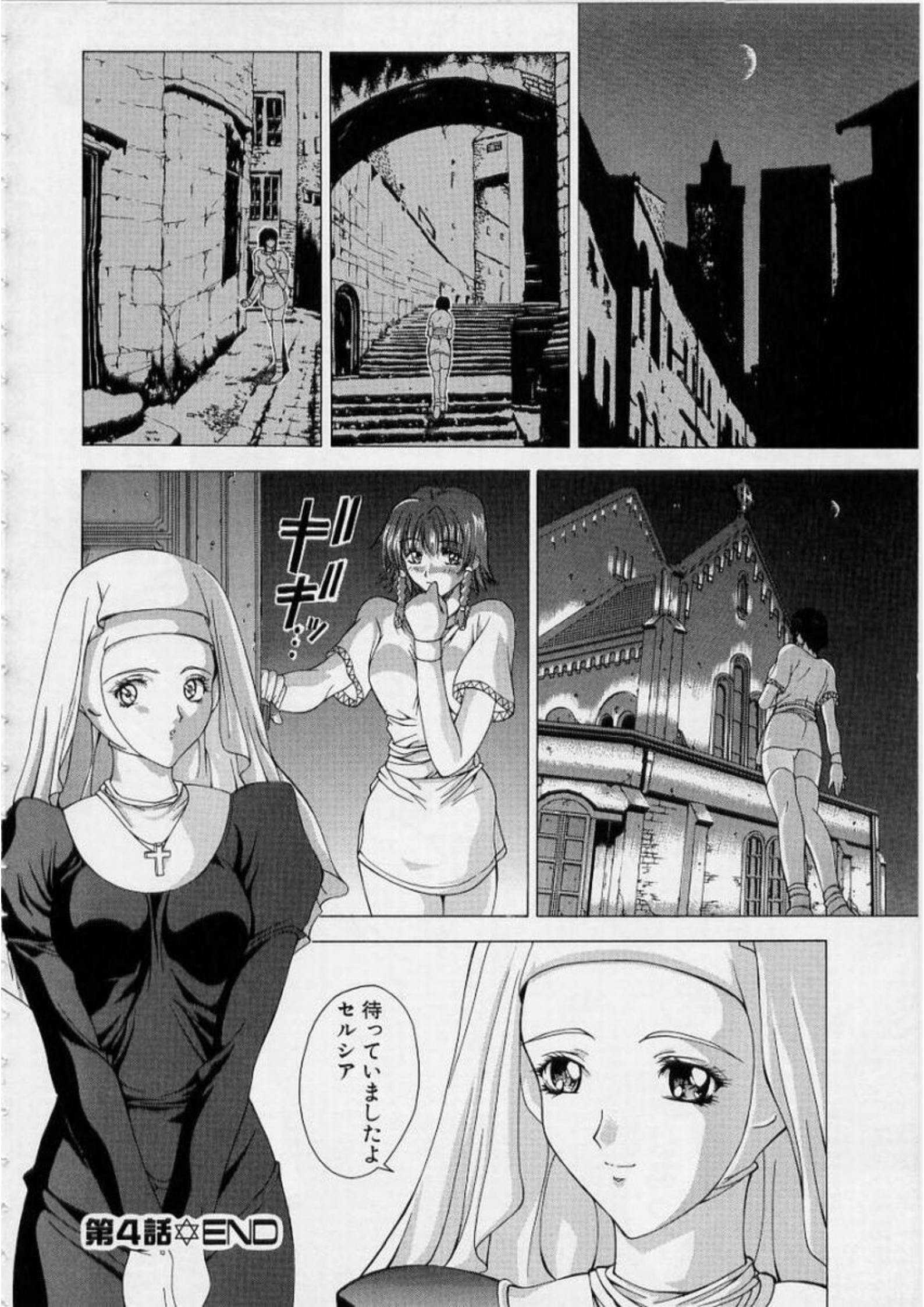
んっんーむっ
んむっ
でも…
このニオイ
あの香とはちがって
んっんん
んっむうう
ちゅぷ
ちゅぷ
ふうっ
んふう…んん
ちゅぷ
ふっあ
んあっ
はあっ
ふっふっ
んっんっんんっ
じゅぷ
あんっ
さからえない
はあっ…はっ
あああっ
びくびくん
びくびくん
びゅよ
びゅくびゅく

さぁ お姫様 お兄様にしてもらいましょ
はなしてよぉ!
えっ…やっ それは!
嫌あ…ダメ それだけはお願い!!
ぎゅっ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ

ヒイッ
あっやぁっやっ
挿入って…はっ
はいちゃうよぉ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ぞくぞくぞく
ダメダメダメぇ!!
はなしてぇっ
挿入れないでぇぇ
ぎゅうっ
すすすす

はっあああああ
はっ
かっはぁぁ入ってくるぅ
がくがく
はあっ
はっあああっんやっやああぁ!!激しすぎっもっもう動かなっ
ジュプ
あぐっ
キリ
ずりゅ
ちゅ
ちゅ
あうっ
ヒイッ
ジュプ
ジュプ
ひあッ
うっうごかなっ…でっ
痛いいっいたっはっ
はっ
パン
パン
はっ
嫌あっん
キリ
はあっ
キリ
キリ
キリ
あっ

はあっ くちゅっ
ちゅる
はっ
やっんぁ
はああっ
はっ
はっ
は


ギリギリッ…
待っていましたよ
セルシア
第4話✡END

くうッ
ふうッ
くうッ
ふうッ
ズリュ
ズリ
あうッ
ズリ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ

オラッ 勝手にへばってんなよ！
ゴプッ
ふうううう…あぁぁぁぁ…
あうッ
ヒッ嫌ああ!!
ズリュ
もう壊れちゃ…こわれるうう！

あぁッ

許してぇ もう…もっ
お願い 射精(だ)さないでぇ!!

ひぁッ

どぷっ

どくん

ビクッ

いやぁぁぁッ

第5話 波紋のさざ波

それで 王女殿下は どちらに幽閉されているの ですか セルシア？

はい フロワンス様は 東の白ろうの塔に 軟禁されています
ですが 昨夜からお側に お仕えするのを 禁じられていて…

そうですか 急ぐ必要が ありますね

ご苦労様です セルシア… これからも
コクン

シスター 兵士がこっちに！

えっ？

シスター!?
何があっても顔を上げてはいけませんよ

どけ邪魔だ!!
困ります勝手に入られては…

どうなさいましたか？

シスター今ここに来た者がいるよな！
ええっ みなさん 礼拝にいらっしゃいますが

なめるな城から女が来ただろう!!
ドクン

カチャッ
さあ？お城の方も礼拝にいらっしゃいますので…
とぼけるな この売女!!
くっ
ビシッ

いかんな――女性に対してそんな態度は…

もっと
スマートにいこうぜ
スマートに！

ったく
一般市民には
手を出すなって
言っただろうが!!

ぐっ

すいませんっ
シスター
部下の非礼を
おわびしますよ

ぐっ

いえ ありがとうございます ベック将軍閣下

ほぉ…私を ご存知で？

ええ 占領軍の 先頭に立って おいででしたから

じゃあ

ははは でしたな!!

では 私も少々 お話を うかがいたいので

みなさん 今日の礼拝は 解散という 事で

カッ

お願い しますわ!!

しーん
ゴクン
どろ…
シスター…
どろ
コクン
みなさん
本日はこれまでに
致しましょう
さあ
あなたも
お帰りなさい
ぎゅ
どろろどろ

ギギギ

シッ…

パタ
でっ
お話とは?

どん

ッ!?

ビクッ

あの……?

ヒッ!?

ビリィ

何を!?

カチカチ

おっ…
おやめくださ…い

ビリィィ

いいかぁ――今から
テメェーをこの
第三将軍ベック・バックハイマー様が
ぶっ壊れるまで犯しまくってやる
ヒクッ
ムラッ
光栄に思うよーに
ギャハハハハッ
ひきょう者
市民には手をだすなと
言っておきながら！
あッ!?
バーカ
ポーズに
決まってん
だろ！
演出だよ
えんしゅつ！
くう…っ

ビクン
ビッ
おやめなさい
神罰が
下りますよ!!
寝言は寝て
から言え!
んぐうッ
ギチッ
はっあああッ!!

はぐッ
はっあぁ
あッ
こっこのような冒瀆…神はお許しに…なっなりませんよ！
か……かならずっあなた方にかっ神の…
はッ
お怒りがかなら…
うっせ――女だなっ!!
がッ
はッあぁ

はっ
ブリュブリュ
あッ
ああ
おいッ
お前達！
黙らせろ！
Blessed are the pure in heart for they shall see God.
神は…おしゃられて
ています…っくっ
心の良き者は幸いだっ
はっ…その人は
神を見るからだ
くうッ
はあっ
ヒイッ
さぁシスター
オレ達の不浄を
きれいになめ
とってくれよ
ビクッ
ビクッ
はあっ…
あむう
レロ
レロ
いいかぁ
歯をたてんじゃ
ねぇぞ
くうっ…
ううっ…ん
はあ
はっ
ニュニュ
はあっ…神よ
お許しください…
ぴちゃ
ぴちゃ
ぴちゃ
はあっ
さもないと
歯 全部ぶちおって
もう一度
しゃぶらせるからな
ふぐっ
ちゅぷ
ぐぽっ
うっん…んんん

はっちゃる
ちゅる
はあっ
ふぐう
ゴブッ
ゴブッ
はあ
へへへっ こりゃいいぜ いいかげん遠征先の羊にもあきてきた頃だったしな
ゲルプッ
ゲルプッ
んぶうううっ
ぐぶぐっ
ふう
はっ
くっ 射精すぜ
こぼすなよ 飲みほせ！
はあっ
レロ レロ
んんッ
ゴポッ
ヒュヒュヒュヒュ
ちゅぷん
コクーン

おらこっちもだ！
ドピュッ
ビュッ
きゃあああ
ゲホゲホ
ごえっ…ぇ
こっちも射精すぜ!!
嫌あああッ!!

お前達も使っていいぞ
ハァ
ハァ
ヒギィッ
もっ…もうおやめなさいこれ以上罪を重ねてっ
おい 尻をこっちに向けさせろよ!
ハッ
ハッ
ハッ
神よ お助け下さいぃこのあわれなっ…子羊に神のっ…お じひぃとっ
ああッ

ハッ
ハァハァ
およしなさいッ
そのような所 神は
お許しになっていません
ギチ
ギチ
ヒギィッ
イィ
イィ
ビク
ズル
あッ!?
ビクッビクッ
ビクッ
あッあああッ
みちッ
みちみちみちッ

ハァ
や…もう
やめて…
やめて
やめてぇ
ハァッ
ハァッ
ハッ
……して
あふっあの…
ふッ
ゆるひ…て
ひっん
あッ
くうんッ
もう…っ
許してぇ！
あっああ
お願いですぅ…
許して下さいいっ

何でもします…だから
だから…もう許して
ひはぁ
ぁぁぁ
はぁ
お許し下さい…
お願い…です
ドプッ
グリュ
ヒュウウウウ

ああッ
ああッ
すごいい
ギッ
ギッ
ガクガク
アッ
アッ
アッ
いいっ
いいよお!!
お尻いいっ
フロウのお尻が
おかしくなるぅ
パシッ
パシッ
パシッ
あはっああ
おしりいっはぁ
ハアッ
アッ
こわれちゃうよぉ
お尻いいのぉ
ひっはぁ
ああぁ
あはぁ…

くそッ

これがあの方の言った役目というやつなのか!?

第5話✡END

あらがっても無駄ですよ…

この香は お姫様に使ったものよりはるかに強力ですから

ぐぐぐぐ

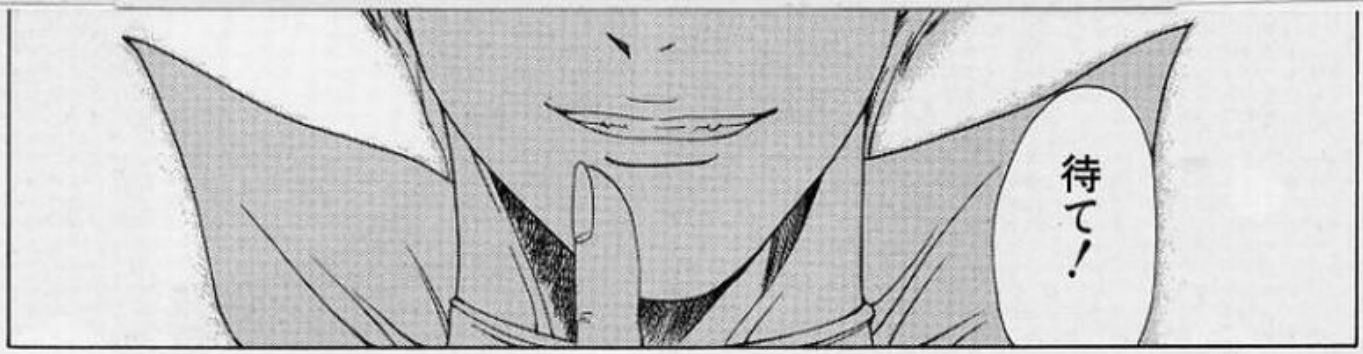
つく!!

ましてや 今のあなたは皇太子殿下に不信を抱いている…

さぁ 私が躾て差し上げますよ

ドカッ
はっ
はあ
フロウのお口に
皇太子殿下の
たくましいものを…
はあっ
はっ
はあっ
あ、あ、あ…
はあっ…

第6話
ささ波の狂宴
ご奉仕させて下さい…
お願いです…
しゃ…しゃぶらせて下さい……
はぁ



お前はおあずけだ
王女
犬の躾は最初が
かんじんだからな！

はあっ
んあッ
はっ
ひっ
ちゅ
ちゅぷ
んんっ

はっ
はっ
はっ
まて……
はっ
ぱあっ
ちゅぷ
ぱあっ
はあ
はあっ
はっ
はあ
まて…
はっ
はあっ
はっ
はっ
よし！
ぱあっ

うわッ
とッ
ザッ
はッ
はあはあ…
はっ
はあっ
んふうッ
ちゅる
ちゅぷ
ふうんんっ
そうがっつくなていねいに扱えよ！
はい
はい
お前を喜ばせてくれる大事なものだからな
ぴちゅ
んふう…
はっ
はあ
うぅん…
ぴちゅ
ちゅぷ
ふう…んっ

んんっ…
ぶる…
くくくっ まったく待ちきれないって感じだな
んッ
んぐうっ
ふうッ
ふんんっ…
ぐぽぐぽ
フフフッ こっちもすごい濡れてる――
んっ
ビクンッ
くちゅ
くわえてるだけでこんなに濡らしていやらしいんだぁ…
ビクン
んっッくう…
くちゅ
ぐちゅ
うづッ
くちゅ
くちゅ
くくくっ それでこそ躾のしがいもあるというものじゃないか
んんっ
くっ
んくうッ
なあ そうだろ フロワンス
ふんっ…
んんっ――ッ
んんっ

ふぅッ
んんっ…
んふ――っ
んァ――…
くぽっ
くぽっ
ふぐうッ
んんっ――!!

んッ!?
ふぐんんッ

コクッ
んっんん…

ふぅッ
いいか
まだ飲むなよ
ちゅぷ
んっ…

さぁ そのまま
教えたように
してごらん
ぶるる…
んんっ…
がくがく
んっ…
ぶるる…
ぶっ…
ぶぁぁ…
どろ…
はっ
はぁっ…
ちゅ
ちゅ
んあっ
んんっ…
はっ

さぁ もういい
来るんだ
フロワンス
ぷぁっ
はい…
殿下…
はっあああ…
はっ
びくっ
はー
がくっ
はー
がくっ
びくっ
はー
はっ
はー
はっ
はー
びくん
ぐちゅ
ふうっん…
にちゅっ…
はー
太いの くちゅくちゅ
して気持ちいいよぉ…

つはあっ…
ふうッ
ふッ…
うんっ…
アッ…
ゆさッ
ゆさッ
ヒャアッ
はあっ
どくどくっ…
はっ
はっ
きっ…きもちいいです
どうだ 王女よ
犬のように扱われ
今 こうして私に
またがっている気分は?
あっ
ぐちゅ
ぐちゅ…
キル
キル

……フッ
立派なものだよ
はあッ
ッはあ!!
あァあああッ
はあッ
あぁッ

はあっ
ああっ
はあッ
どうです 将軍
いいかげん素直に
おっしゃっても
いいのですよ
はっ…
はっー
はあっ
はあっ
はあっ
はぁ…

はあっ
はっ…
だっ…誰がきさまなどに！
はっ…
くっ…これくらいの事で

さすがは…と申したいところですが…
ぐちゅ
ビチャ
んっ
開発されている分 それがかえって あだになる…ですかな

ビチャ
ビチャ
はッやああ

ほら
少しの刺激にも
たえられない
はあ
はっ
はあっ…っ
殿下…殿下…
ふ――まったく
そんなにも
あれが恋しい
のですか？
カチャ
仕方ありませんね
あまり気は進みま
せんが……
そんな…
あ…あなたは

でんか……
ご主人…様？
はぁ…
はぁ…

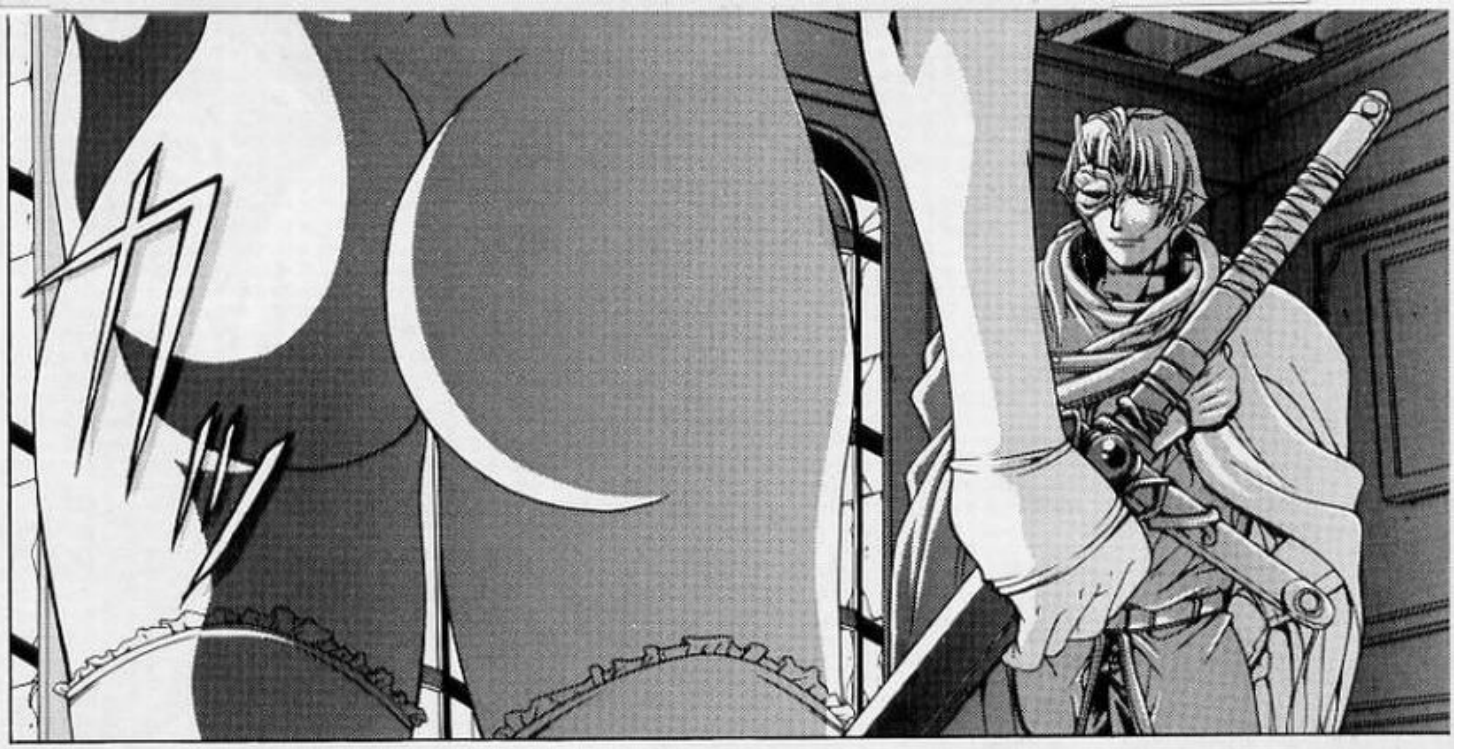
はあっ
ぶるぶる…
はっ…
はっ…
ごっ
ご主人様
ああっ…
はっ…
はあはあ…
ビクビクッ
はあはあっ
っあっくう…
カクンッ…
ビクッ
ちゅぷ
ちゅぷ…
くっうんん…
ムリリ
ちゅぷ…
ちゅぷ…
っあはああ

ぞくぞく
ああっ…
つくん…
どうしたんだ アルシェラ 欲しいのか？
はあっ…
…っあ
はーっ
はっ——
いいっ…下さい 膣内に……
はあっ
はっ
なっなかに… ご主人様の 下さい……
ぞくぞくぞく
挿入れてぇ！
はッ
はッ
はやくぅっ… はっはやく!!
ぶるぶる
ぶるぶる
ぶるぶる

んあッ…
はあッ
あくッ
ひあッ
あアッ
くあッ…
どうしたアルシェラいきたいのか？
はあぁ…
はぁー
いく時はちゃんと言うんだぞ！
いっ…いくいきます！
ぅあーーぁぁ…
あ…ぅ

いくづッ
ズブッ
お願いです早くぅ！
ずぷっ
射精してぇ膣内に…なかあ!!
はッ
いくっん
ああッ
いくづッ
いきますッ!!
あッ
ッあ!!
ゴポ
びくん
びくん
ドピュ
ドピュ

ビチャ
ひっあああ!!
ビクッ
ドボ
ブクブク



第6話✡END

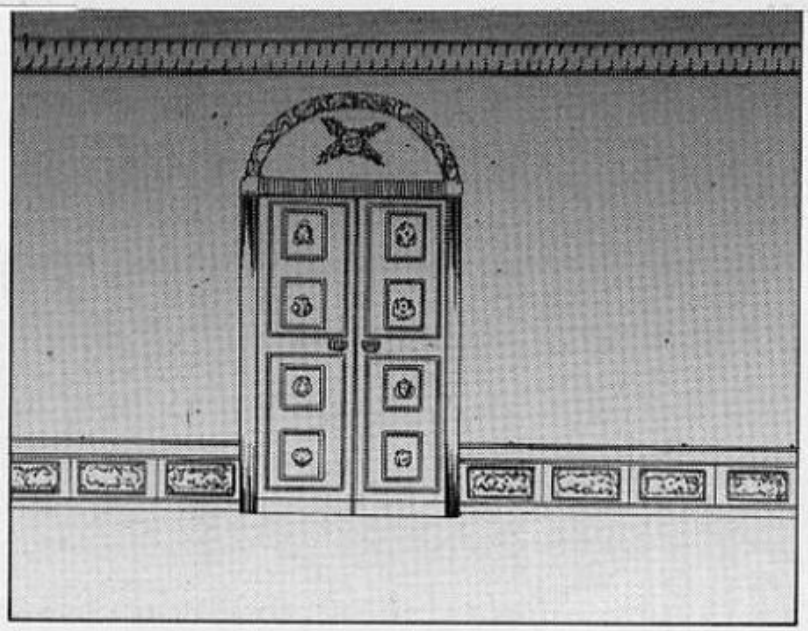
昔々のことよ…
地上を治める神々は
長く続く戦乱の中
この地を下界からへだてる
何ものをもしりぞける
聖なる壁をお作りになられたの…

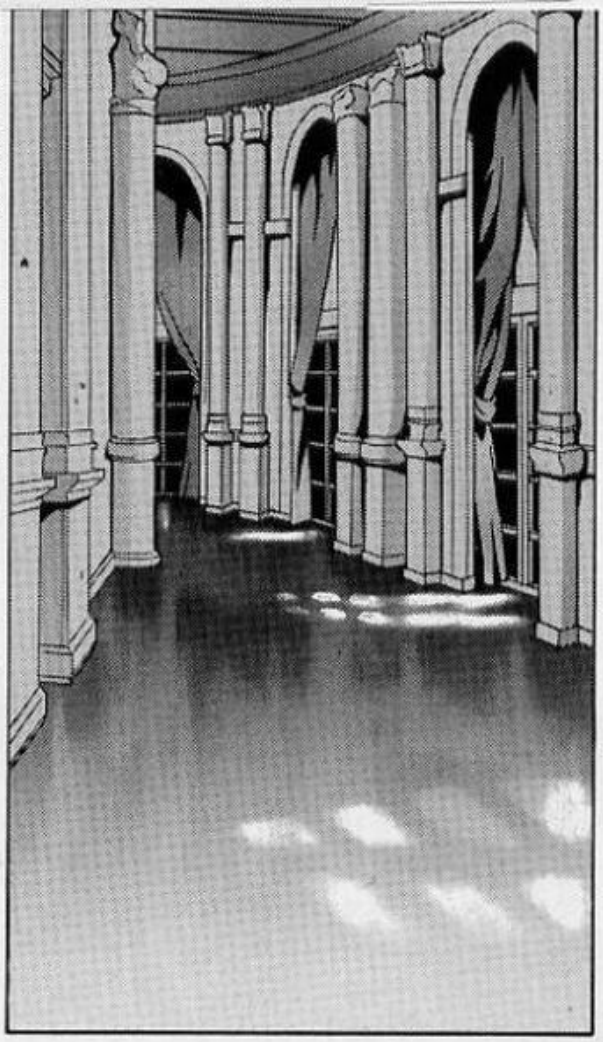
不可侵の壁

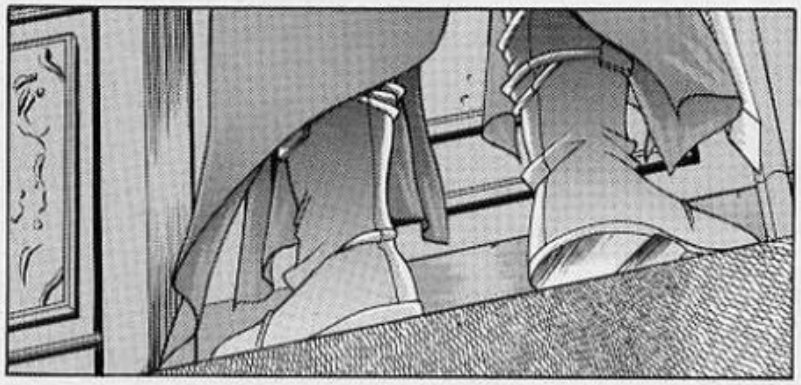
A nonaggression wall

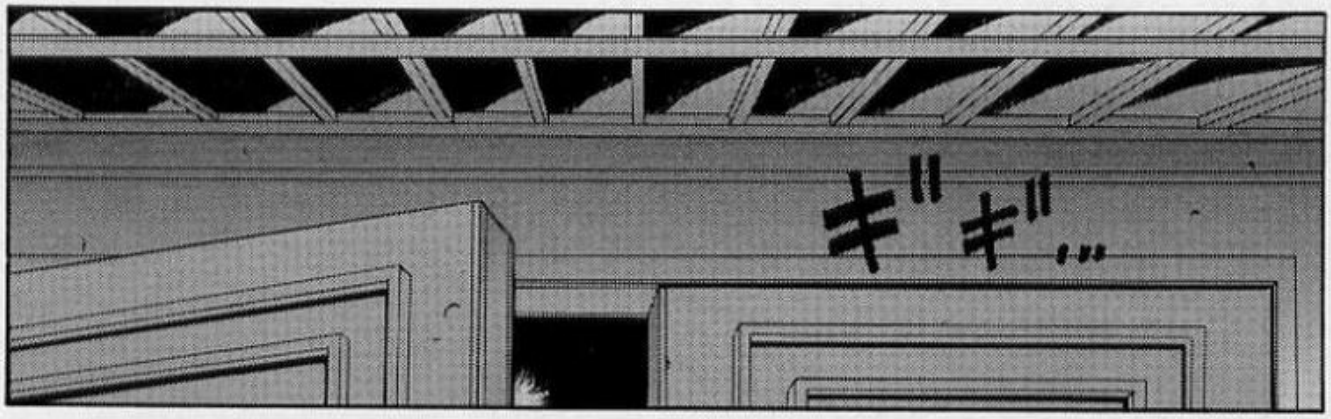
オオオ

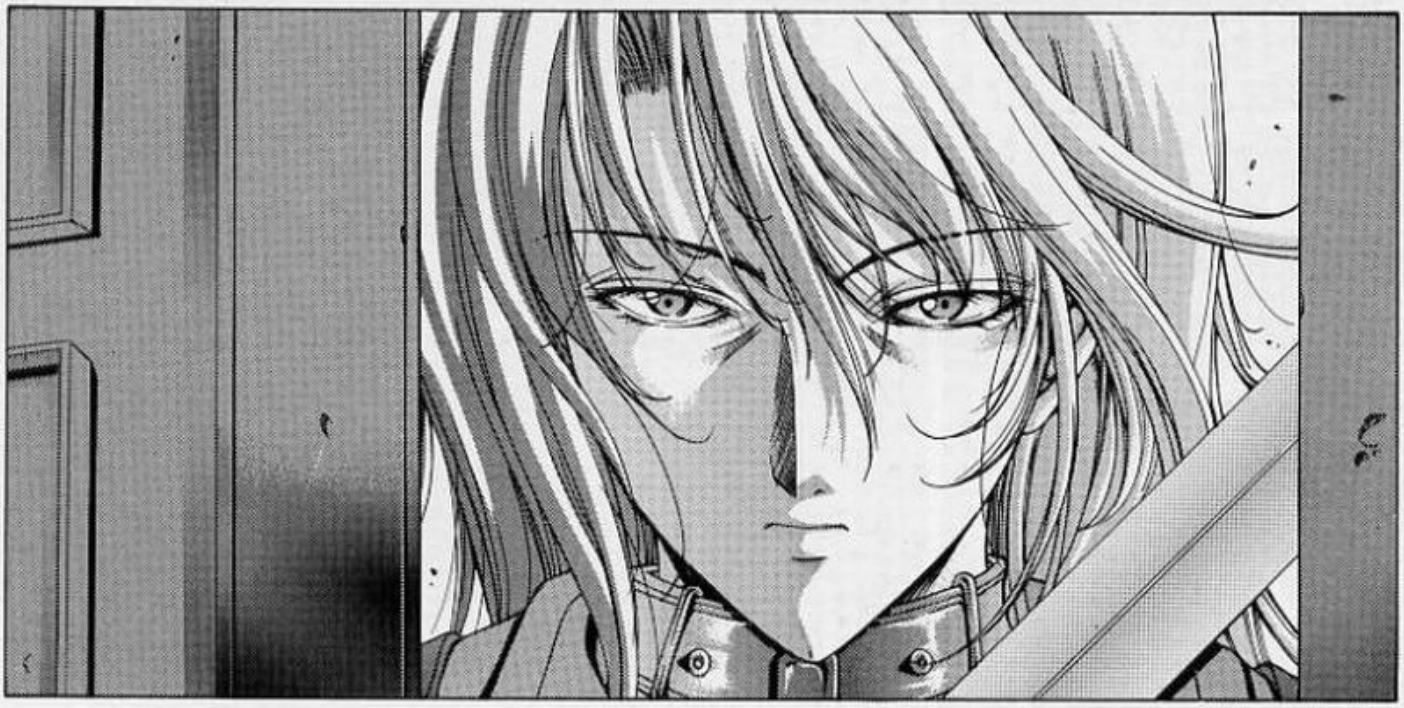
ゴオオオオ
第7話
狂宴の終幕

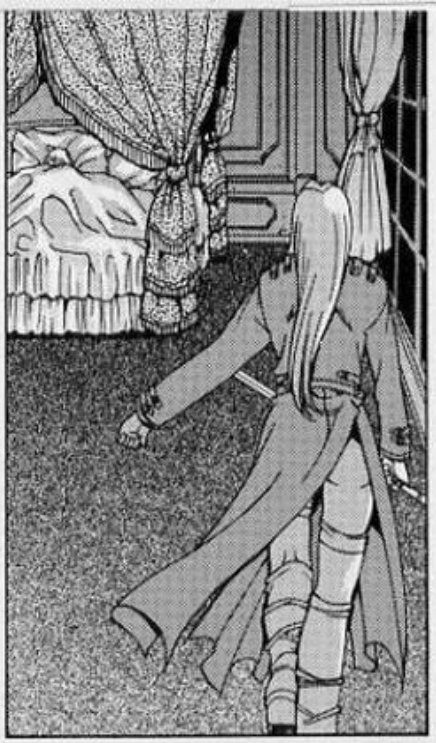


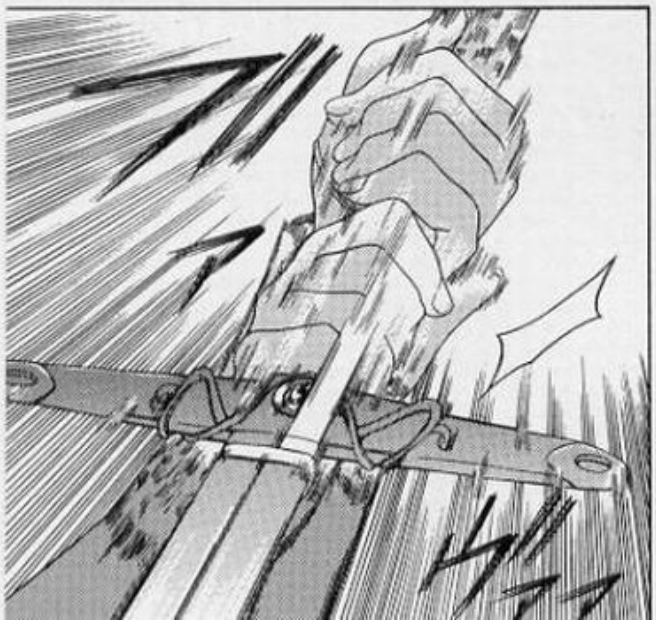





キ"キ"…







殺せ!!

ガリ
キリッ

ばん
ばリ
ガラ
ガリ

ハッ

アルシェラ…

で…殿下…

殺せ!!

王女を…殺せ!!

わ…わたしは…

わたしは…

はあ

はっ…

はっ

私は殿下のご命令で…

アルシェラ
二人の時は
ご主人様だろ
ごしゅじん…さま
ぼっ
ぼっ
ぼっ
カタカタ
ブッ
ドン

任せる…

あの方のしわざだな
アルシェラを使うとは…
急ぐ必要があるな

あッああ
ズッ
あッ
やあッ
ズリュ
いいかげん
あきらめて
尻ふれよ！
はっ
くッ
ずぶっ
ずぶっ
ちゅぷ
はあッ
あうッ
もう何日
こうして輪姦して
やってると
思ってんだ!?
たぷ
たぷ
はっ
ズリュ

ああッ

はッ

やあッ

ち…ちっとも良くなんて…ないわよ

あッ

ったく 誰のだか わかんねーザーメンで 腹いっぱいのくせに 感じてんだろ てめぇも!!

ヒイッ

じゃあ感じるようにしてやるよ!

んんっ やあッ

あづッ

ヒギイッ

くうんッ

やあッ
あぁぁッ!!
ぶるんぶるんっ
ぶるんっ
ぶるる
どぷぷん
ぴゅ
ひゃくひゃく
がくんっがくっ
ヒヨッてねぇで見ろよ!

ぐぽっ…
ふぐう
あっちの奴なんかバカでかい胸ゆらして精液あびてるぜ！
ちゅぽ
ちゅぽ
んんっ…
ふうッ
ちゅぷ
ぐぷ
ちゅぽ
んぐうッ
ゆさゆさ
かくっ

ちっ畜生…！
くっ！
お前だって尻と前に2本もさしてヒイヒイよがってたじゃねぇか
ガキーン
くっくそ…
殺して…やる
あぐッ
ああんッ何だってえ!!
ぜったい…ゆ許さないッ!!
ケッ たくあきらめのわりい女！

お前よぉ まだ助かるかもなんて 夢にも思ってんじゃ ねえだろうな?
よく聞けよ!
……っ
見せしめのため 捕虜を数人 処刑する事が 決まってる…
まあ 全員って わけじゃねぇ あくまで抑止が 目的だな
ああッ
お偉がたを 処刑するのが 常だが そうと ばかりは限らねえ
くうっ

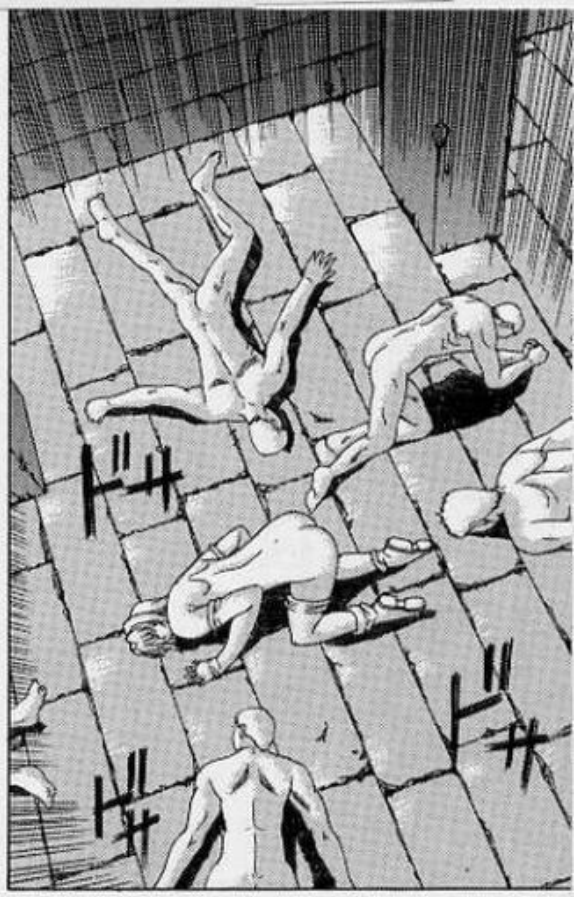
やあっああ
ビクッ
ビクッ
ぶるる
ちゅるちゅる
ちゅる
わかるよな!?

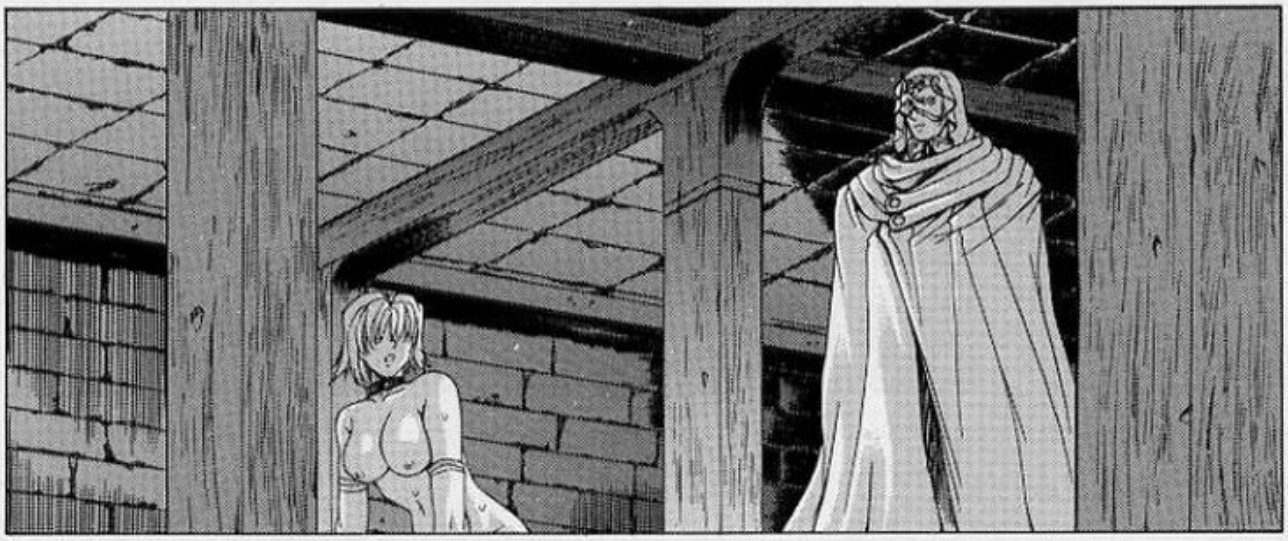
いつまでも締まりの悪くなった穴を飼っておくほどオレ達もヒマじゃねぇのさ
くうんッ
ちゅっ
ぢゅぷぷぢゅる
ふー

……
やる気のねえメスを犯ってもつまんねぇんだよ

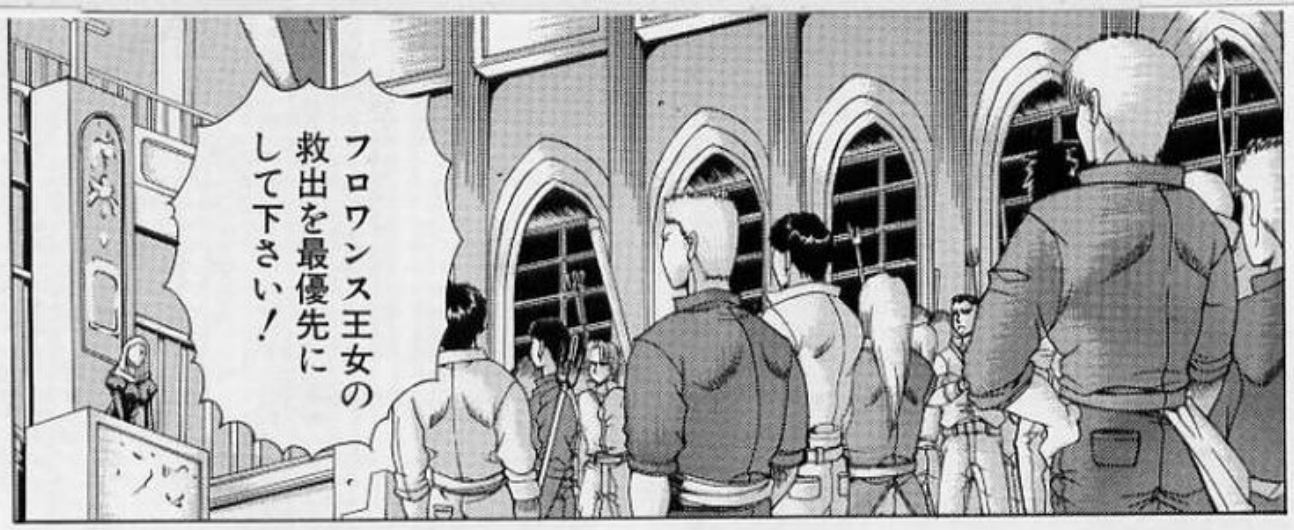
よく考えるんだなまだ何十人も後がつかえてるしよッ
ビリ
バチバチ
うっくうぅっ…
ぷっ
ふー

はぁ…
はぁ…
はぁ…


ドサ
ドサ



お前達にこの国を返してやろう…
ズウ

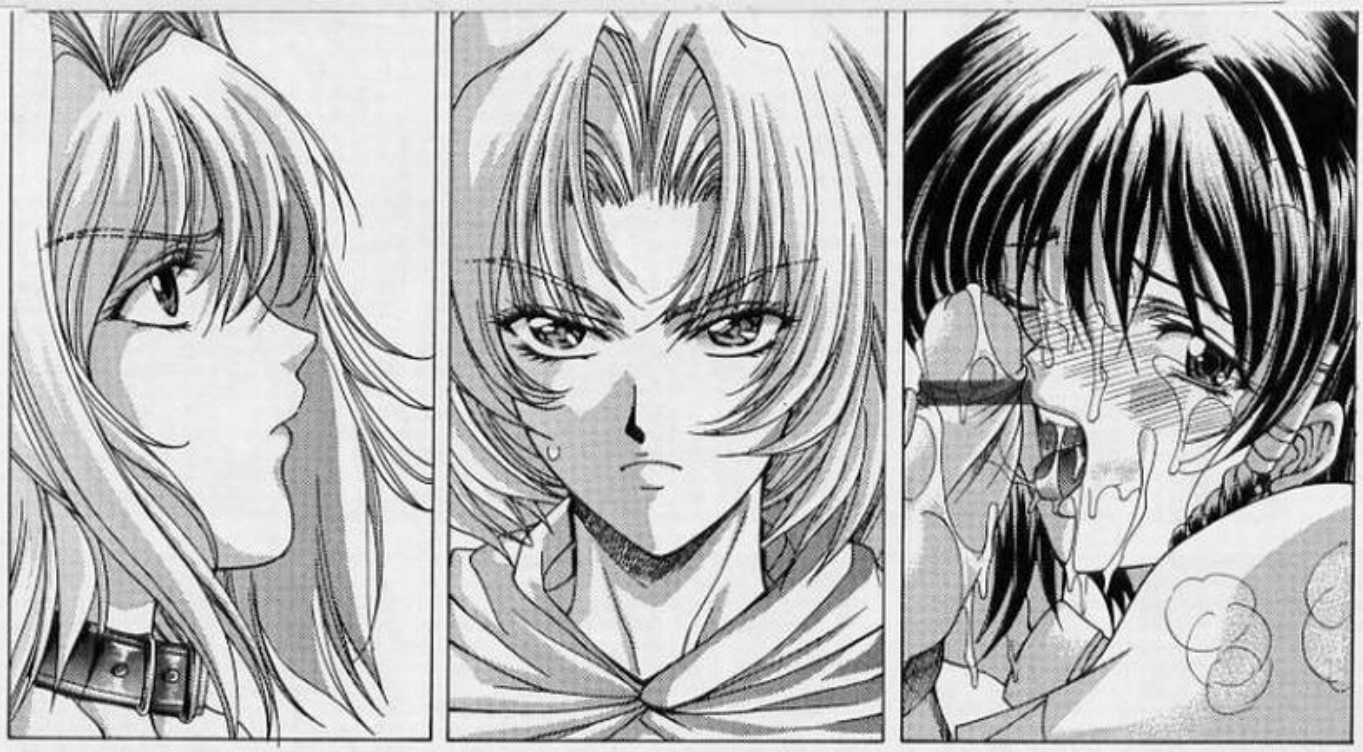

フロワンス王女の救出を最優先にして下さい！

今夜 城から火の手があがりますそれを合図に…

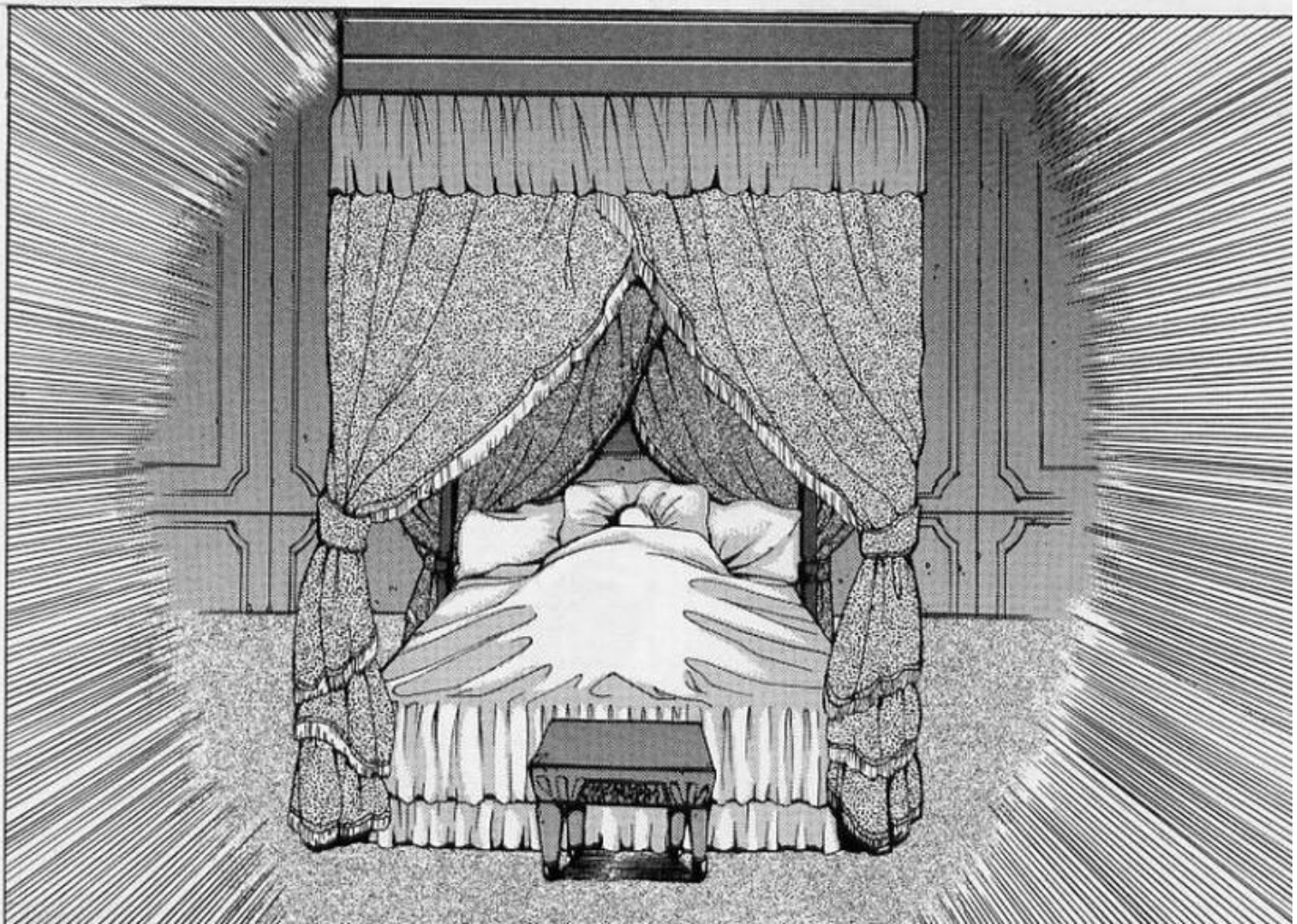
南門より城内に侵入して下さい！

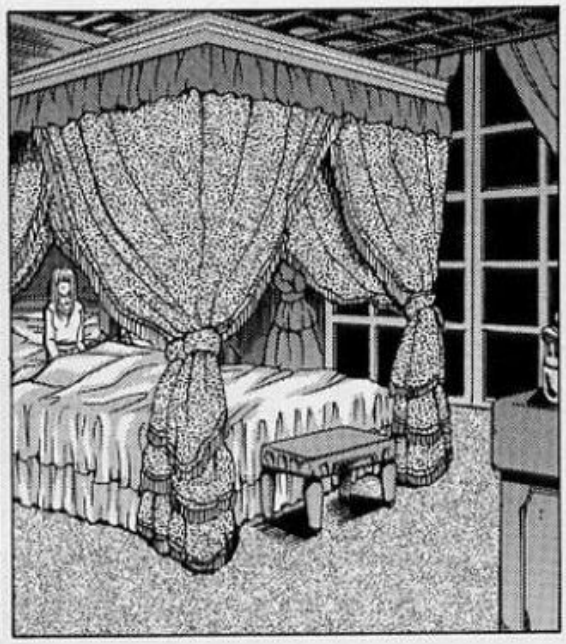
あなた達の手で…

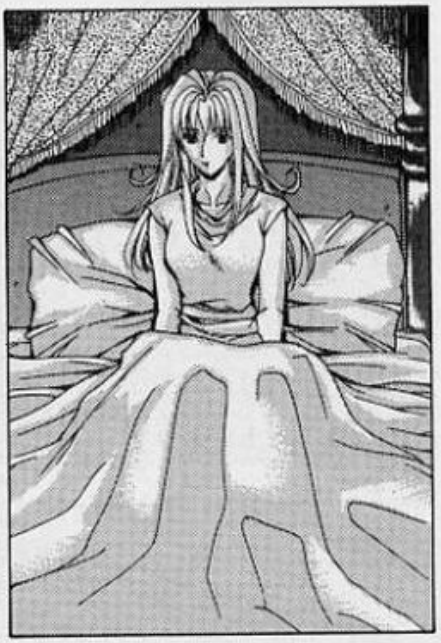
私達の手でこの国をとりもどすのです!!

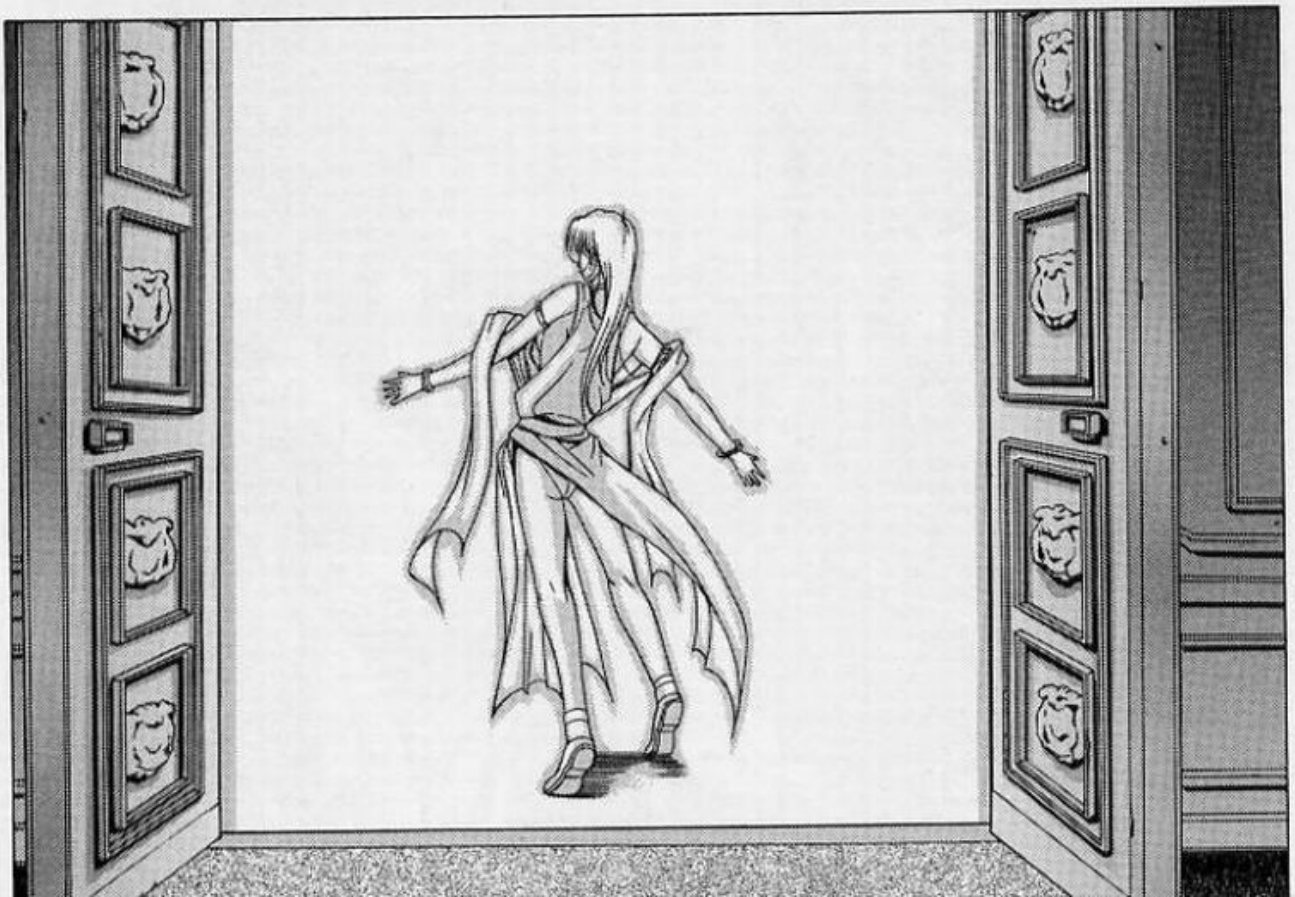


王女殿下…









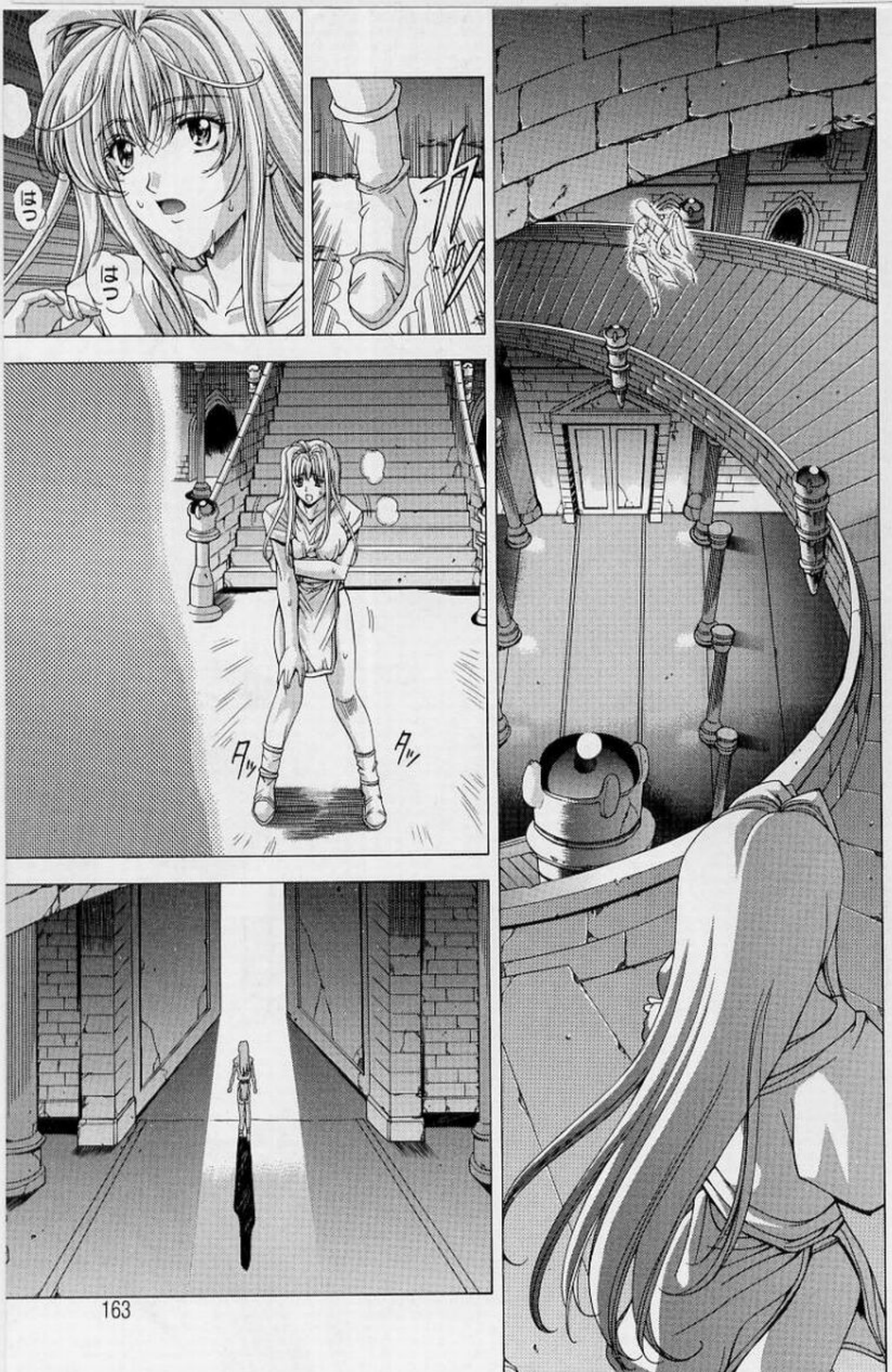
クス…

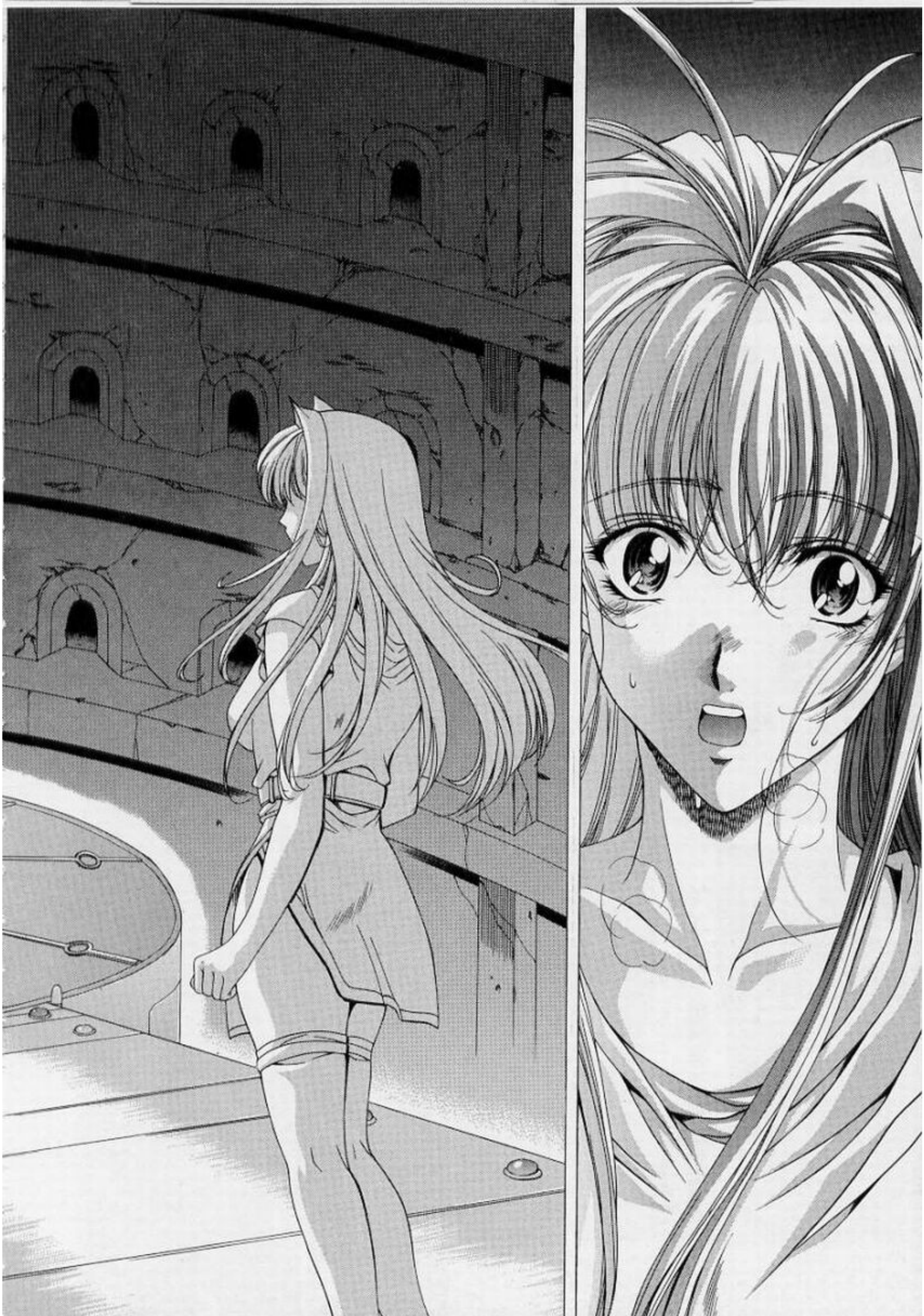
お姉さま…

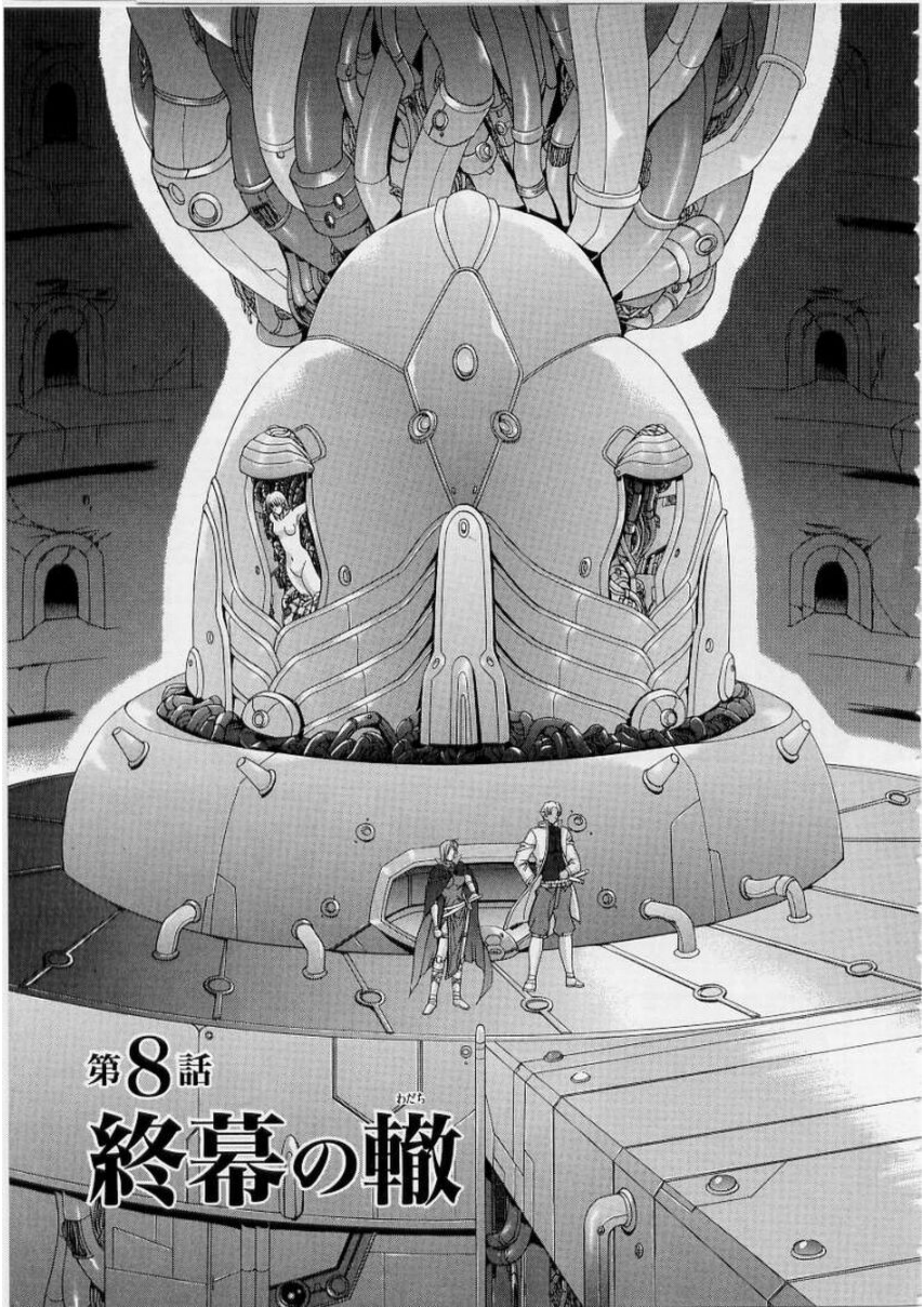
クス…

シルヴィア…

第7話✡END


つぼ
つぼ
カッ
タッ
タッ





第8話

終幕の轍（わだち）

こっ……
これは!?

古代機械だ!!

古より我らが
大陸を守護する
聖なる壁の
制御装置だ

カシム皇太子

そしてこれを
操るのに必要な
アナヘイム王家の
二つのカギ…

壱式

ひとつは
お前 フロワンス
そして もうひとつは…

シルヴィア!!
さぁ 王女として役目を果たしてもらうぞ!
あう!
ビクッ
何が… あなたは何が目的なのです?
ビクッ
あッ
ビクッ
別に… 少し外の世界とやらに興味があってね…
あっあああ…
すすすす
きゅん
ビクッ
まっ…まさか 聖なる壁を!?
ぷるるん
すっ…
はっ…
はっ…

王女よ 力を貸せ
そうすれば…

この国も
お前も
自由にして
やろう…

はっ

あっ…

お前次第だ…

ぶるる

はっ…

そっそっそっ…

はっ…

はっ…

はあ

いや…お前が
この国を
救えるんだ

ぴくん

きゅちゅ…

はッあぁ

さぁ…迷うな
お前は俺の
言う通りに
すればいい…

ぶるる

はっ…

はっ…

あっ…

わたしはっ
…わたしは

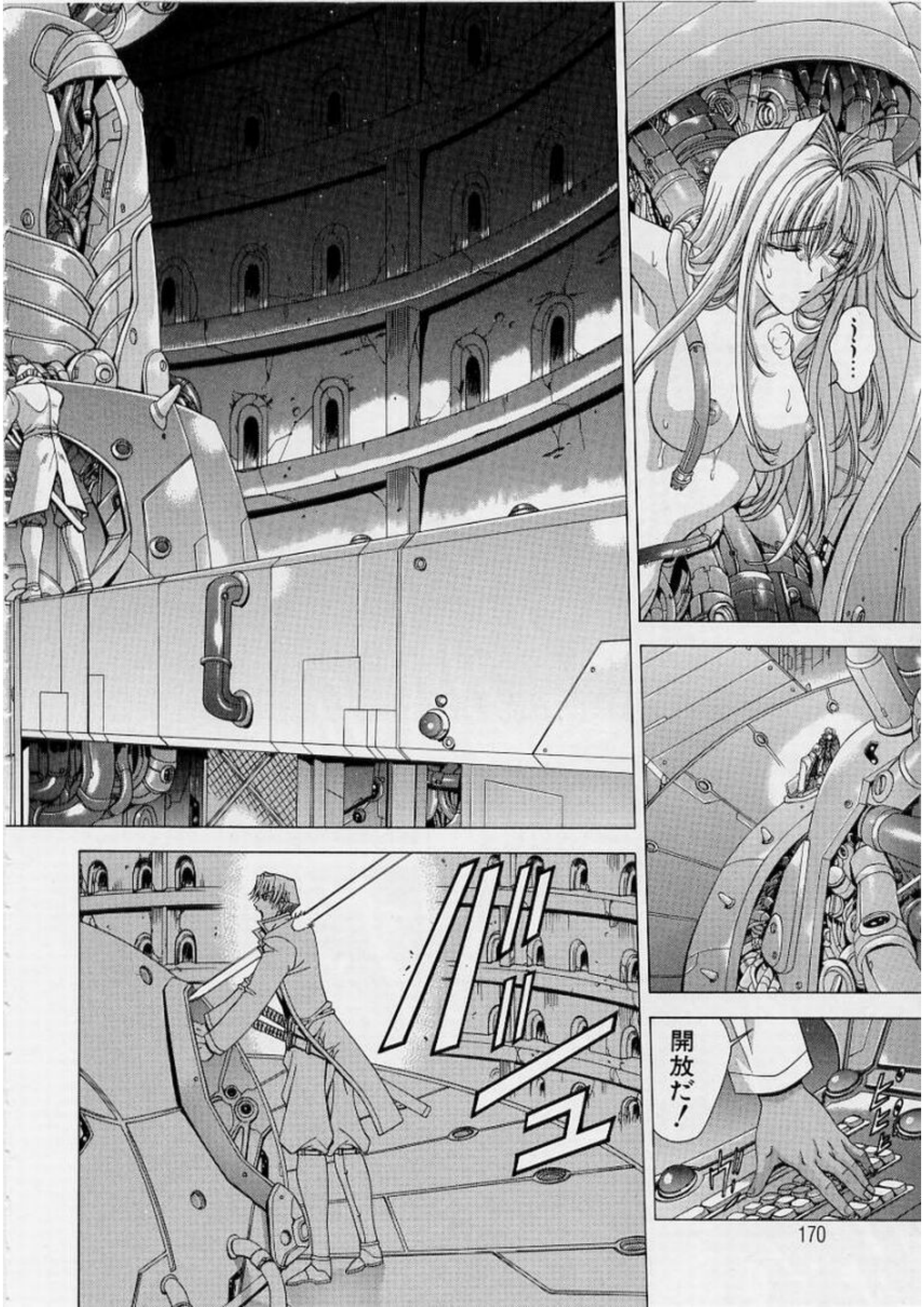
はっ…

はあ

はっ…

ズッ!!!!ッ!!

ズズズ
やッあああああ
ズルルル
ずるるる


……
開放だ！

殿下あッ!!
うッ
カクーン
カシム様
いかに貴公と
いえども
このような世界の理に
反する行ないには
目をつぶるわけには
いきませんな…

ウウウ
ヒュウ
いや あえて言おうか 弟よ!!

フッ
ひっ!!

殿下!
兄上 いまさら 私の地位が うとましくなったのですかな?

ウォ
この力ゆえに 双子でありながら この身を影に ひそめた事など…
私には未練の かけらも ありはしないさ…

だが…皇帝は 変革など お望みではない

ふん 父か… あの男に 何ができる!

母さえ 助けられなかった 男だぞ……
キリ…

カシム…何を考えている？

……

言ったろ 外の世界が見たいと!!

そして そのために壁が邪魔なだけさ!!

そうか…

ならば俺はお前を止めなくてはならないな!!

フッ できるかよ!?

ぬうッ
ハッ
ガァァ
ガァァ
ガァァ
邪魔をするな!!!
ギュゥゥゥ
人形どもめ!!!
ドドド

カシム!!!
ドドドドッ
ズオオオ
ドドドドッ
ああああッ

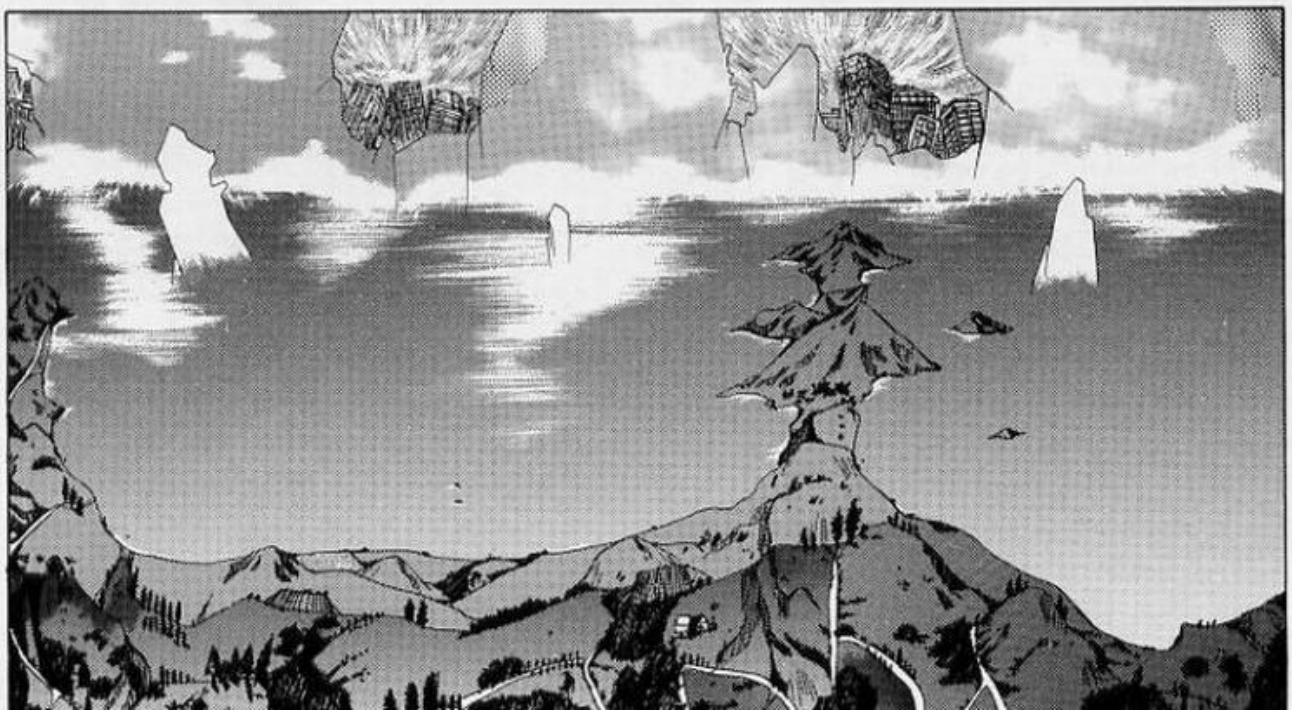
ガカカカ
ブルブルブル
殿下の邪魔はさせない!!
ああああ
ズズズ
キサマ そのカ!?
オーグ
こい!
ゼー
ゼー
ゼー

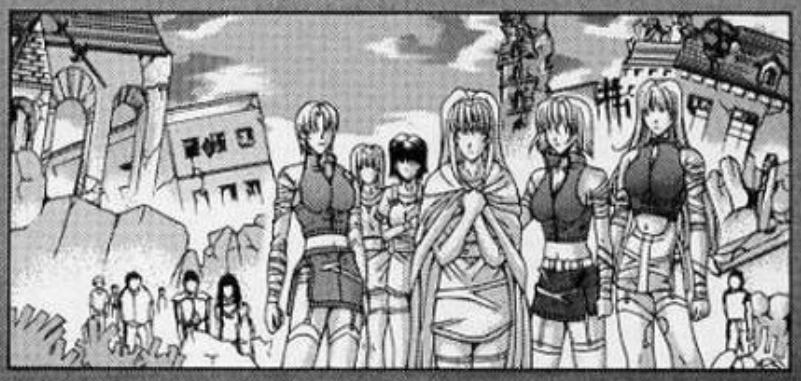
ドゴン

ゴゴゴ

フルゴン

ハラ
ハラ
ハラ





PAST PRINCESS——完

（スタジオバビロン製作後記）

どもっ
東雲舞樹です

今年はサラ金ばっかうってたよ

金太郎

このたびは
パスプリをお買い
上げ頂きありがとう
ございます

こうやって2冊目の
単行本がだせたのも
読者の皆様
関係者の方々の
おかげです

いやまじで

ペコリン

金太郎

本当にありがとう
ございます

それにしても長かったよ
2冊目でるのに
2年かかるとは…

ヒューー

金太

ったかオレが遅いんだけどねー

最初はどうなるかと
思ったけど なんとか
一冊にしてもらえて
感謝してます

ガ

途中アシスタントの入れ
かわりもあって 色々
大変だったけど

じっさい一時期
まいってたよ…

金太郎

今は ポセイドン高橋さんと
ロデム枝松君に手伝ってもらって
戦力倍増です

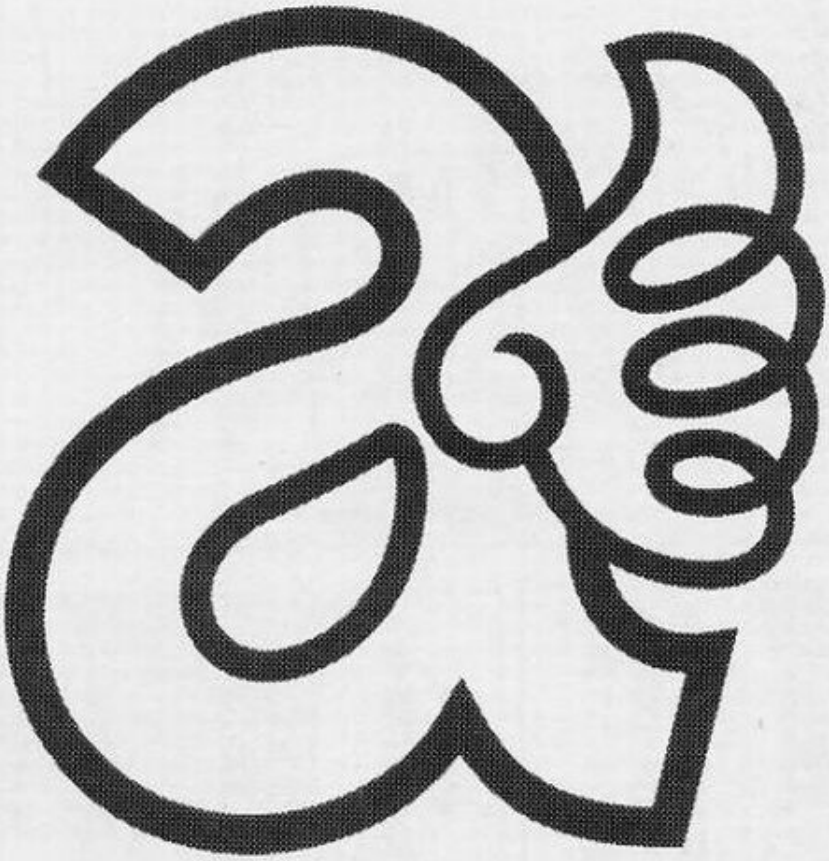
よしっ
3冊目は一年半位で
だせるようがんばるぞ!!

ってか
がんばりますので
よろしくお願いします

金太郎

自信ないけど…

ロプロスは飛んでったけど…



エンジェルコミックス
PAST PRINCESS
平成15年2月17日　第1刷発行〈検印廃止〉

著者©◉東雲舞樹
発行者◉高野正治
編集者◉地引功一
印刷所◉三晃印刷株式会社
発行所◉株式会社エンジェル出版
〒162-0813　東京都新宿区東五軒町3-28
電話［編集・営業］03-5261-4580

装幀◉クリエイティブ・S・ジャパン
装画◉東雲舞樹
編集◉滝沢英明

落丁・乱丁の場合は本社にてお取り替えいたします。
●定価はカバーに表示してあります。
©Shinonome Maki 2003 printed in Japan.

ISBN4-87306-158-X C9979

★この作品は『エンジェル倶楽部』'01年4月号〜'02年7月号に掲載されたものです。

はむぅっ
はあふぅ
んんっ
ゲッ!?
なんこね…
ハハハ
あはっ
アハ…ハハハ
こんな毎日です

ISBN4-87306-158-X
C9979 ¥876E
9784873061580
雑誌52251-59
定価：本体876円＋税
1929979008765
エンジェル出版